

憲法史目錄

英國憲法史

二丁

第一章 「チャートニック」人種ノブリテイン征

服ヨリノルマン征服ニ至ルマテ(從紀元

四百五十年至同千六十六年) 同丁

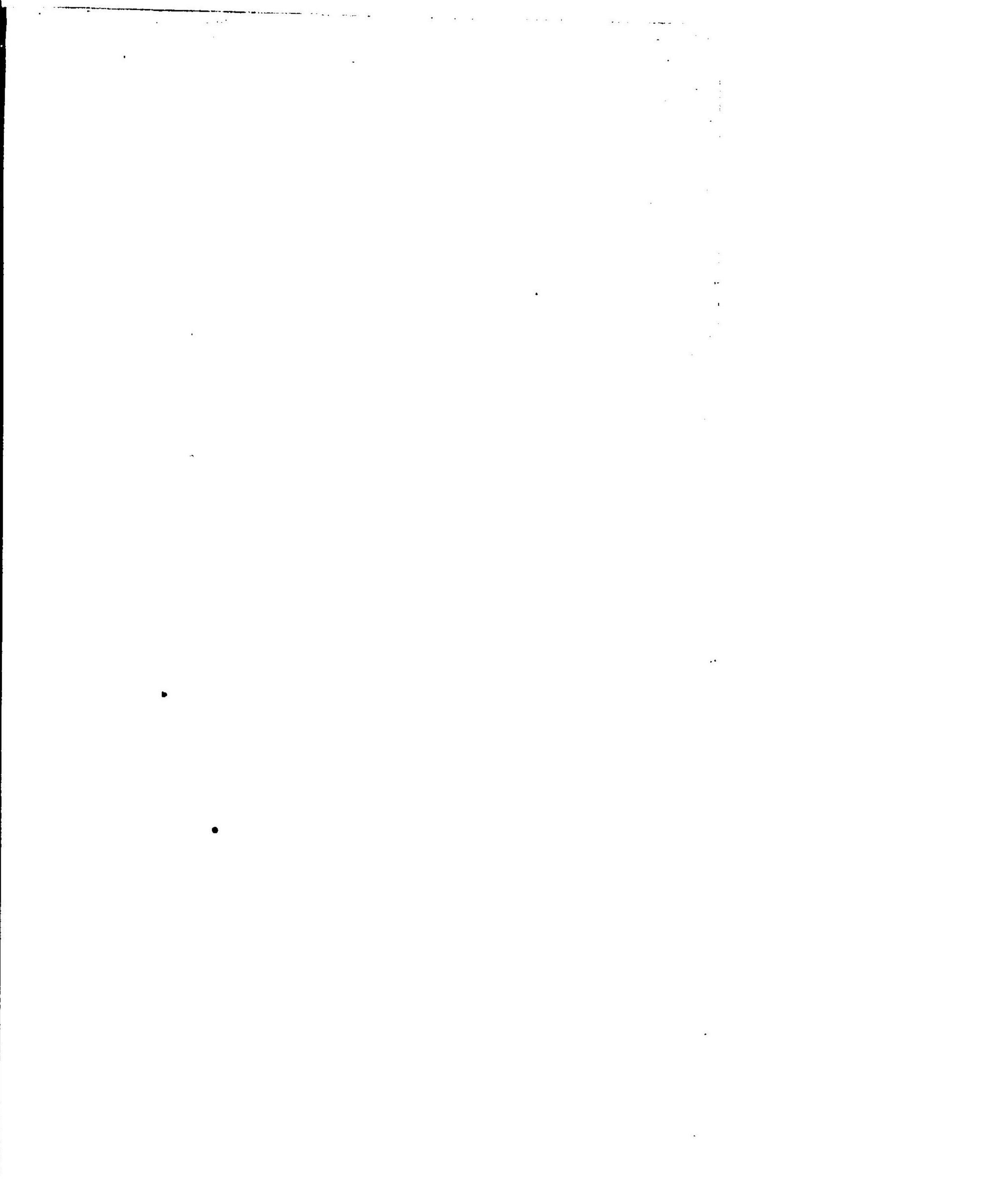
第二章 ノルマン征服 四二丁

第三章 「ノルマン、アンジ、ピン」王統初代ヲ叙ス 六七丁

第四章 「マグナ、カルタ」即大憲章 七九丁

憲法史目錄終

憲法史目錄



憲法史

米國文學士 茨木宗之講義

本校ハ余ニ囑スルニ諸君ノ爲メ英米二國ノ憲法史ヲ講述スヘキコトヲ以テ
余モ亦敢テ自ラ量ラス猶テ諸君ト共ニ大ニ精研研磨スル所アラシキコトヲ期
テ然レトモ此ニ一ノ悲ムヘキハ講究ノ時間甚ク僅少ニシテ余ノ説カ
ト欲スル所ヲ陳フル能ハサルコト是ナリ蓋英一國ノ憲法史ヲ以テスラ已ニ一
學年ニ涉リテ餘アルヲ覺フ然ルニ今一學年ニ英米二國ノ憲法史ヲ説キ終ラ
トス其困難ナルヲ言テ俟タサルナリ故ニ余ハ已ムテ得ス今學期ニ於テハ諸君
ニ示スニ唯英米憲法ノ發達變遷ノ梗概ヲ以テ其ノ精密詳細ナルコトハ之レ
ヲ他日ニ讓ラント欲ス余ノ主トシテ憑據スル所ハラズウエルフングミード氏ノ
英國憲法史ニテ傍觀スルヲナスハラムイ及ヒクナイネトピセント等諸君者ノ

憲法史

説ヲ參考シ成ル可ク諸君ノ爲メ小補アランコトヲ勉ム可シ

英國憲法史

第一章

「ケルトニク」人種ノ「ブリタイン」征服ヨリノ「ルマン」征服

ニ至ルマテ(從紀元四百五十年至同千六十六年)

英國國民ノ起原

現今英國國民ノ特有スル制度憲法ノ如何ヲ知ラント欲セハ必ス先ツ英國ヲ組織スル所ノ人種ハ如何ナルモノナルカヲ究メサル可カラズ蓋シ英國國民ノ起原ヲ説ク者コ種々アリト雖モ就中「ブリトン」アングロ「サクソン」ブリン」及ヒ「ノルマン」ノ四種族相混同セルモノナリトノ説最モ其多數ヲ占ムルカ如シ此説タルヤ固ヨリ誤レルモノニ非スト雖モ亦必スシモ誤謬ヲ生スルノ弊ナキニ非ス何

トナレハ近代歐洲各國國民ノ根源ヲ探求スルトキハ何レノ邦國ニ於テモ多少各種族ノ相混同セルヲ發見セサルハ無キヲ以テ唯漠然四人種ノ混同ヲ指名スルノミヨシテハ未ダ以テ他國國民トノ區別ヲシテ明確タラセムルコト能ハレハナリ

故ニ苟モ一國人民ノ起原ヲ搜リ其特性ヲ發露セント欲セハ必ス先ツ其國民ヲ組織セル各人種中ニ就キ最モ大部分大多數ヲ占メ最モ卓越秀逸セルモノヲ舉示セサル可カラス今英國人民ノ根源ヲ尋ヌルトキハ前記ノ四人種ニ歸着ス可シト雖モ其最モ卓越シ其最モ多數ヲ占ムルモノヲ求ムレハ唯一ノ「セルマン」種族(又之ヲ「ケルト」種族ト云フ)アルノミ

抑「セルマン」人種ハ紀元四百五十年頃始メテ大英國ニ侵入シ爾來漸漸盛食ヲ進シテ殆ト第六世紀ヲ經過スルノ頃迄ニ英國ノ大部分ヲ押領シ其境域東ハ「セルマン」海ニ濱シ西ハ「バイン」河ニ沿ヒ南ハ「ブリタイン」海峽ヨリ北ハ「ブリス」海ニ至ル皆其版圖ニ非サルハ無シ

是ニ於テ從來英國ニ住居セシ「ブリトン」人ハ「セルマン」人ノ侵襲ニ抗敵スルコト

能ハス其鋭鋒ヲ避ケタイングランドノ西方ニ逃レ一小邦ヲ建設シテ暫時其處ニ住居セリ蓋ブリトン人ハ其窘逐セラレタル當初ニ在リテハ尙ホ許多ノ境土ヲ有ゼ今日ノ所謂ウェールズ地方ヲ全有シ且ストラス、ブライ、ド、王國ヲ併有セザリント雖モ漸漸其領地ヲ切掠セラレ遂ニウェールズ西方ノ山中ニ逃レテ伴カニ餘喘ヲ保ツニ至レリ然レトモブリトン人中威ハウール地方ニ赴カスレテ大陸地方ニ走リタル者アリ又或ハ留マリテセルマン人ノ隸屬ト化セタル者アリ持ニ婦女子ノ如キハ侵略者ト婚嫁シテ僅カニ其生命ヲ維持シタル者亦少ナカラスト云フ要スルニノルマン征服後英國大部分ノ住民ハセルマン種族ニシテ今日ノ所謂英人ハ實ニ其後裔ニ外ナラス然リ而シテセルマン人ノ侵入ハ紀元六百年代ニ至ルモ尙ホ斷絶スルコトナク且アイン人遊ニノルマン人ノ如キハ其名稱ヲ異ニスルト雖モ共ニセルマン人ノ一種ナリシテ以テ見レハ結局英國全土ヲ席捲セタル者ハ専ラセルマン種族タルヤ益々疑テ容レヌ

英國ノ制度
英國國民ノ祖先ハ複雜混淆セルモノニシテ單純ナルモノニ非スト雖モ其最キ

卓越タルモノヲ求ムレハセルマン人ナルコトハ前項ニ於テ既ニ之レヲ叙述セシカ今一步ヲ進メテ英國國民ノ制度憲法ヲ尋究スルニ其綱領本體ニ於テハ毫モ羅馬人ノ遺傳物ニ非スシテ亦實ニセルマン人種固有ノ所ナリヨリ發生シタルモノトス抑羅馬人ノ英國ニ侵入セシ時ニ當リテハ羅馬ノ文物典章ハ其英國ニ輸入サレタルコト有リト雖モ一旦羅馬人ノ英國ヲ退去スルニ及ヒテヤ羅馬ノ制度法律モ共ニ英國ノ制度中ニ其形體ヲ存ヒサルニ至レリ然レトモ其後英國住民ノ耶蘇教ニ改宗スルニ際シテ羅馬法ノ精神ハ直接ニ輸入サレタルコト無シト雖モ間接ニハ多少英國ノ法度ニ影響ヲ及ハシタルヤ疑フ可カニス何トナレハ羅馬法王ヨリ發遣サレタル高僧輩ハ當時英國ニ開設サレタルウルクナ、ケモト、智者ノ集會及ヒシヤ、ソット州會ニ臨席シ自ラ英國ノ立法並ニ司法事務ニ干與容喙シ爲メニ自國ノ法理ヲ多少注入シタルコト有レハナリ又直接ニ羅馬法ノ影響ヲ受ケタルコト無シトモ第十二世紀ノ頃英國ニ於テ一時法學ノ研究盛ニ行ハレタルコト有リシ此時ニ當リ羅馬法ハ法律ノ根源タルノ故ヲ以テ英國人ハ競フテ之ヲ研究シ爲メニ羅馬法ニ精神ヲ英人ノ腦裡ニ

浸染セシメタリ今一例ヲ舉ケテ當時ノ實況ヲ示サシニ紀元千四百四十九年ニ於テ有名ナルロンドンバート國ノ法律家バカリアスハ英國大僧正レオボルドノ招ニ應シ英國ニ來リオクスホルド大學ニ於テ羅馬法ヲ課シ傍ラ英人ノ爲メ「サムマ」ト名クル法律書ヲ編纂シタリ蓋此書ハ羅馬法中有名ナル「グレイセス」ト「コー」ト中ヨリ拔萃シタルモノナリト云フ其後久シカラスレテ法律家バカリアスハ「スチーヴン」王ノ爲メ其講義ヲ禁止セラレタリト雖モ此カ爲メ一般ニ流行シタル羅馬法ノ研究ヲ防遏スルコト能ハサリシ亦以テ當時羅馬法ハ英人中ニ勢力ヲ有シタリシ一端ヲ見ルコト足ル可シ

斯ノ如ク當時羅馬法ノ研究旺盛ナ極メタリト雖モ是學問上研究ノ爲メ各人ノ隨意ニ出テタルモノニシテ組織サレタル一制度トシテ羅馬法ヲ英國制度中ニ採用シタルコトハ絶ヘテ有ルコト無シ然リ羅馬法ノ主義精神ニ至リテハ多少英國司法上ニ存留セシコトハ蔽フ可カラスト雖モ羅馬法ハ制度トシテ英國ニ存留セシコト無シ故ニ概シテ之ヲ言フトキハ英國ノ政治上及ヒ司法上ノ諸制度ノ本體ニ至リテハ無論「セルマン」人種ノ祖先ヨリ相傳シタルモノナルコト疑

フ可カラス

英國制度ハ「セルマン」ヨリ傳キタルモノナルコト前既ニ述フル如ク英人及ヒ英國ノ制度ハ重ニ「セルマン」種族ヨリ其源ヲ發シタルモノナルヲ以テ英國現時ノ憲法及ヒ諸制度ヲ知悉セント欲セハ先ニ「セルマン」人種カ英國ヲ征服スル以前其本土ニ於テ因襲シタル社會上及ヒ政治上ニ於ケル諸制度ヲ研究スルヲ以テ最モ其方法ヲ得タルモノトス然レトモ事始ト太古ニ屬スルヲ以テ明確ナル記録ノ以テ徵スルニ足ルモノナシ唯史家「ヒード」紀元六百七十二年ヲ以テ生レ同七百三十五年ヲ以テ歿スノ説ニ從フトキハ英國ニ移住セシ人種ニ三種アリ即チ「アングルス」「サキソンズ」及「ジーン」是ナリト然レトモ羅馬ノ史家「タケラス」ハ身自ラ蠻烟瘴雨ヲ冒シセルマン地方ヲ跋渉シ歸來「シャーマニヤ」ナル一書ヲ出版シ其旅行中ニ於テ見聞シタル所ヲ世ニ公ニシテリ然レトモ其書中ニ記スル所ヲ見レハ單ニ「アングルス」ノミニ關シ「ヒード」ノ所謂「サキソンズ」及「ジューツ」ニ關スルモノ有ルコト無シ是ク「ケラス」ノ此等二種族ニ邂逅セサリシモノナルカ抑又當時此等二種族ノ存在セサリシモノナルカ今之

審ニスルヲ得ス第二世紀ノ史家トレミーハ(アングルス(サクソンズ)ノ占有
タル土地ヲ以テエルベエイデル及ワルノ)等ノ諸州貫通セル地方ナリトセリ
而シテ今此地方ヲ尋ヌルニ現今ノ所謂ホルスタインノ公領地ロレーンブルク
及ヒメクレンブルク等ヲ指稱スルモノノ如シ
此時ニ當リ此等種族ノ状態ヲ見ルニ全ク野蠻昧ノ域ニ徘徊シ未タ羅馬文明
ノ光輝ニ照サレヌ其尊信スル所モ多ク神教コソテ耶蘇教ノ何ナルヲ解ヒス從
フテ亦教化行ハレス唯知ル所ハ隣國ヲ侵略シテ其ノ土地財貨ヲ奪取スル事ノ
ミナリキ又此等ノ種族カ其本土ニ於ケル政治上並ニ社會上ノ状態ヲ觀察スル
ニ史家タシタスノ時代ニ在リテハ政治上ニ於テセルマンハ數多ノ各個獨立シ
タル種族ヨリ成立シ其種族ハ一定ノ領地ヲ有スルコト無ク時ニ或ハ東西ニ漂
泊シ又時ニ南北ニ流浪シタリ而シテ其田土ハ有名ナル(マルク)制度(マルク)制度
トハ土地ヲ一個人ノ私有ニ歸セスシテ全ク之ヲ一種族ノ共有地ト爲シ其共有
地中新作ニ適スルモノハ之ヲ平等ニ分配シ其牧場ニ適スルモノハ之ヲ分配ス
ルコト無ク共同ニ使用セシム且其土地ノ分配ハ年年變更スルモノニシテ一人

ニシテ年年同一ノ土地ヲ耕スコトヲ得サル組織ナリトスニ依リテ支配サレタ
リ又其會社上ノ組織ヲ見ルニ一種族相團結シテ一社會ヲ爲スモノヲ(メーガス)ト
稱シ(メーガス)ノ相集合シタルモノヲ(シピタス)ト云ヘリ
是ヨリ日耳曼人種カ未タ英國ニ侵來セサル前其本土ニ於テ有シタル社會上ノ
情況ニ付キ講述ス可シ

第一 社會上ノ階級

日耳曼蠻族ノ有シタル社會上ノ階級左ノ如シ

第一 貴族(羅句語ノノヒリス)

第二 自由民(羅句語ノインゼニ)

第三 (フリードメン)

第四 奴隸(羅句語ノサーバイ)

第一貴族ハ神裔若クハ由緒アル門閥縉紳ノ徒ニシテ貴族的ノ元素トシテ名譽
アル地位ナリト雖モ別ニ特權ヲ有スルコト無シ是東西兩洋貴族ノ相異ナル所
ナリ第二自由民ハ固有ノ(セルマン)人ニシテ社會民主的ノ元素ト爲リ以テ政權

ニ參與セリ第三「フリードメン」ハ曾テ奴隷ヨリ免セラレテ自由民ニ化セラル者
 ニシテ政權ヲ有スルコト無ク専ラ農業ヲ事トセリ第四奴隷ニ二種アリ即チ一
 ハ敵國ノ囚虜若クハ刑餘ノ自由民ニシテ管ニ政權ニ參與スルコト能ハサルノ
 ミナラス又貴族若クハ自由民ノ爲メニ虐待若使セフレモ社會上ノ權利ヲ有
 スルコト無キ者他ハ之ヲ「サーバイ」ト稱シ政權、民權兩ナカラ之ヲ有セザリト
 雖モ單ニ土地ノ耕種ニノミ使役セラレ前者ノ如ク貴族若クハ自由民ノ爲メ苛
 酷ノ待遇ヲ受ケザリシモノ是ナリ

第二 人民ノ職業及ヒ生活ノ程度

「シーガル」ノ記録ニ據レハ紀元前後ノ日耳曼種族ハ漸ク水草ヲ逐フテ轉居漂泊
 スルノ蠻風ヲ蟬蛻シ將ニ農業土著ノ生活ヲ營ムノ時期ニ進マントセリ其後凡
 ソ百五十年ヲ經過シテ史家「タングス」ノ時代ニ及ヒテハ既ニ全ク漂泊ノ風習ヲ
 脱シ家屋ヲ營ミ田土ヲ耕シ數多ノ小社會ヲ組織セシコト疑フ可カラズ然レト
 モ其家屋ハ木材ヲ以テ建築シタル矮屋ニシテ人畜共ニ雜居シ且土地ヲ耕シ牛
 羊ヲ牧スルト雖モ其最モ嗜好スル所ハ戰闘及ヒ獸獵ナリ又夫婦間ニ於テ妻

ハ夫ニ奉事スルト同時ニ夫ヨリ敬愛ヲ以テ酬ヒラレタリ人民ノ多數ヲ占ムル
 者ハ自由民ニシテ土地ヲ有シ奴隷ヲ使役セリ又其住居ハ相接近スルコト無ク
 遠ク相隔離シテ住居セル者多カリト雖モ相集リテ村落ヲ爲セル者亦尠カラ
 サリシト云フ

第三 政治上ノ區劃

當時日耳曼社會ノ組織ヲ見ルニ左ノ四階級アリシカ如シ

第一家族 第二村落 第三郡(「タングス」ノ所謂「ベトカス」) 第四國家(「タングス」
 所謂「シピッス」)是ナリ

第四 政治上ノ組織

諸君中或ハ當時ノ日耳曼種族ハ唯一個單獨ノ國家ヲ組織セルモノナリト速断
 セラルル者アルニ然レトモ日耳曼人トハ該種族一般ノ總稱ニシテ其下ニ數多
 ノ獨立シタル國家ヲ包括スルモノニシテ唯一ノ國家ニ非サルコトヲ忘ル可カ
 ラス然リ而シテ此等數多ノ國家ニ於テ其主宰者タルモノハ或ハ國王ナルコト
 有リ或ハ國王ヲ奉戴セスシテ「アリソン」ニ稱スル長官ヲ選舉推戴セルモノ

有リ而シテ其國王ハ貴族中ヨリ國會ノ選定スル所ニ係リ其權力有限ニシテ陸海軍ヲ指揮スルコト能ハス裁判官ヲ選定スルヲ得ス及ヒ宣戰講和ノ權ヲ有セス等ノ制限アルヲ見レハ唯一國ノ代表者ニ過キスシテ主權者ニ非サリシコト明カナリ「アリンシェス」モ亦同シク貴族中ヨリ國會ノ選定スル所ニシテ中央政府ヲ統轄セリ而シテ地方ノ政務ニ至ラバ別ニ「アブセッセル」ナル百人ノ有司ヲ置キ國會ト共ニ之ヲ司掌セシメテ故ニ當時國家ノ主權ハ主トシテ貴族ト自由民ヲ以テ組織セル國會ニ存シタルコト明ケン

又郡若クハ村落ノ制度ヲ見ルニ各其長官アリ議會アリ以テ自治ノ制度ヲ實行セリ蓋人智未タ朦昧ノ域ヲ脱セス文字未タ行ハレサル當時ノ社會ナレハ今日ノ如キ整頓完備セル政治上ノ組織存セザリシハ勿論ナリ

國王若クハ酋長ハ國會ト原野ニ相合シ宜戰講和ノ議ヲ決シテ又當時ノ裁判制度ヲ見ルニ裁判官ハ「アブセッセル」若クハ陪審官ト平野ニ法廷ヲ開キ以テ訟獄ヲ決シテ然レトモ一私人ノ被リタル損害ハ概テ其家族若クハ一個人之ヲ復讐スルニ止マリ政府ハ之ニ干渉スルコト無シ復タ以テ當時諸制度ノ簡單ナ

リシテ見ルニ足ル可シ

第五 兵制

日耳曼蠻族中一朝事起リ干戈ヲ動かササルヲ得サルトキハ國會ニ「アリンシェス」中其最モ驍悍ニシテ軍略ニ熟達セル者ヲ推シテ三軍ニ帥タラシム之ヲ稱シテ「デュークス」ト云フ而シテ其軍隊組織ノ方法左ノ如シ

第一ハ國民軍ニシテ各村落各郡ヨリ應募セル全國ノ自由民ヲ以テ編成ス

第二ハ「コミタータス」ニシテ「アリンシェス」カ平素養成撫育セル許多ノ從兵「コマイタ」ヨリ組織ス蓋此等ノ從兵ハ貴族若クハ自由民ノ子弟ニシテ身ヲ劍戟干戈雷電ノ間ニ投シ功ヲ千軍萬馬狂奔ノ際ニ奏セント欲スル慍悍決死ノ猛士ニシテ自ヲ奮テ「アリンシェス」ノ麾下ニ隸風ニ常ニ一意専心忠誠ヲ守リ武膽ヲ練リ以テ有事ノ秋ヲ待ツノ徒ナリ故ニ平生ハ遊獵ニ耽リ宴樂ヲ事トスルニ拘ハラス國家一旦事アルニ當リテハ畢生ノ勇武ヲ振作シテ復テ死生ヲ省ミス故ニ「アリンシェス」モ亦其麾下ノ士ニ劣ルヲ以テ終生ノ汚辱ト爲シ奮闘力戰唯後レシコトナ之レ恐ル蓋日耳曼當時ノ兵備ハ主トシテ猛烈勇悍ナル此軍隊ニ依リ

ヲ維持セラレタル(是實ニ封建制度ノ一起元トス)

第六 日耳曼人ノ性質及ヒ體格

羅馬ノ史家タシタスハ其著書「ウァーミアニア」ニ於テ漫遊中觀レシ目撃セル日耳曼人ノ性質及ヒ其體格ヲ記シテ曰ク

(甲)性質(美德) 日耳曼人ノ有シタル性質中嘆美ス可キモノ甚ナカラス其勇悍ニシテ死ヲ恐レサルカ如キ宏度大量ニシテ友情ニ濃ナルカ如キ獨立不羈ニシテ最モ自主自由ヲ熱愛スルカ如キ誠實ニシテ自ラ欺カサルカ如キ自重自敬荷シテ屈セス義務責任ヲ重ニスルカ如キ愛國ノ思念ニ富ミ堅忍ニシテ嚴寒ニ堪ヘ疾病ニ撓マサルカ如キ女性ヲ憐ミ特ニ其妻ヲ愛重シ一夫一婦ノ大倫ヲ固守スルカ如キ若クハ婦女ノ貞節ヲ守リ凜然トシテ侵ス可カラザリシカ如キハ特ニ日耳曼人ノ他人種ニ卓越スル所ニシテ今日ニ至ルマテ相傳承シテ滅セザルモノ少ナカラス且親族ノ關係甚タ親密懇切ニシテ社會上ノ組織、軍務、司法、行政皆之ニ由レリ

(乙)性質(惡德) 斯ノ如ク日耳曼人種ハ稱贊嘆美ス可キ好性質ヲ有スルト同時ニ

亦其缺點ニ乏シカラザリシ其猛烈ノ極殘虐ニ陷リシカ如キ懈惰ニシテ博奕ヲ志ニシ動モスレハ鬪爭是事トスルカ如キ甚タ飲酒ニ耽リ屠暴飲亂醉スルカ如キ若クハ徒ニ冒險的ノ行爲ヲ好ミ身命ヲ賭スルカ如キ則チ其厭フ可キモノトス然レトモ表裏長短ハ事物ノ常ニシテ人ニ於テ何ソ獨リ怪ムニ足ラズ況ヤ彼等未開ノ蠻族ニ於テオヤ

(丙)體格 日耳曼人ノ容貌體格如何ナリシヤト云フニ身體甚タ偉大ナルヲ以テ羅馬人ハ之ヲ呼ビテ「ジャイアント」(巨人)ト云ヘリ其骨格強健ニシテ甚々臂力アリ綠目隆準相照シ凜烈タル風采ヲ示シ而シテ其毛髮ハ赤色若クハ銅色ヲ帶ヘリ自由民ハ獨リ垂髮ヲ以テ風ト爲セリ以上略陳スル所ハ日耳曼人ノ未タ英國ヲ侵略セサル以前永ク因襲シタル政治上並ニ社會上ニ於ケル諸制度ノ梗概トス然レトモ爾後幾多ノ移住ト征服ニ因リ此等古代ノ制度ニ變化ヲ及ホシタルモノ甚ナカラス王權ノ發達シタルカ如キハ蓋其一ナリ

ノルマン征服ノ未タ起ラサル前日耳曼種族ハ互ニ相混和シテ一國民ヲ爲スニ至レリ余ハ今第七世紀ヨリ第十一世紀ニ至ルマテ英國ノ憲法ハ如何ナルモノ

ナリシカチ研究セントス蓋當時ノ憲法ハノルマン後ニ至ルマテ永ク相傳承
 歲月ノ變遷ト共ニ幾多ノ改正變化ヲ生セシコト疑ナシト雖モ其根元ノル大主
 義ニ至リテハ今日ニ至ルト雖モ依然トシテ更ニ變スル所ナ見ス
 侵來セル種族カ征服セル領地ハ如何ノ方法ニ依リテ移住民ノ間ニ分配サレタ
 ルカ吾人之ヲ詳知スルニ由ナシト雖モ土地ノ大部分ハ血統ニ依リテ結合セル
 兵士一百ヲ以テ組織セル各組合間ニ分配シ更ニ之ヲ小分シテ「ミィグス」ト名フ
 クル近親間ニ分配セリ各「ミィグス」ニ分配セル土地ハ家長之ヲ占有シ其他ノ上
 地ハ社會ノ共有地トシテ耕作セリ
 自由民ノ間ニ分配セル土地ノ外種族ノ酋長ハ別ニ私有地ヲ有セリ貴族及ヒ其
 他劣等ノ族長モ各自ニ相當ノ土地ヲ私有若クハ受領シシモノノ如シ此ノ如ク
 種種ノ分配ヲ爲セル後尙ホ殘餘セル土地ハ全移住民ノ共有ト爲シ之ヲ稱シテ
 「フョーランド」民有地ノ義ト云ヘリ然ルニ其後各種族若クハ各「シャイア」相合シテ
 數王國ト爲リタルモノ又ツ「セシス」王國ノ爲メニ併吞セラレ遂ニ變シテ大英國
 ト爲ルニ及ヒテ各「シャイア」ノ「フョーランド」モ等シク變シテ數王國ノ「フョーランド」

「ト」爲リ再變シテ英國ノ「フョーランド」ト爲レリ
 土地共有ノ制度未ダ全ク其根跡ヲ絶タスシテ市府及ヒ「メノル」共有地ノ如キ古
 代ノ遺物尙ホ今日ニ存スルモノ有リト雖モ概シテ之ヲ云ヘハ共有制度ハ私有
 制度ノ壓倒スル所ト爲レリ故ニ「ノルマン」征服前英國ノ全土ハ之ヲ二種ニ區別
 スルヲ得ヘシ即チ第一共有地「フョーランド」第二私有地「ボックランド」是ナリ
 「フョーランド」ハ國民ノ共有地ニシテ國家ノ歲入多ク之ヨリ出テ國會ノ許可ナ
 クンハ恣ニ之ヲ私有地ト爲スコトヲ得サリシト雖モ政府ヨリ相當ノ地代及ヒ
 諸負擔ヲ定メテ之ヲ私民ニ貸與スルコトヲ得タリキ然レトモ是元ト貸借ニ出
 ツルモノコレテ永久人民ノ私有タルコトヲ得ス暫時ニシテ期滿ツルトキハ必
 ス政府ニ返還セサルヲ得サリシナリ
 之ニ反シテ「ボックランド」ハ完全ナル所有權アル土地ニシテ原始ノ分配若シクハ
 國民ノ許可ヲ得テ共有地ヨリ分割シテ永久一箇人ノ私有地ト爲リタルモノナ
 リ

「フョーランド」ハ時トシテ一人若クハ數人ノ生涯間通シテ私民ニ貸與スルコト

有リト雖モ之カ爲メ其共有地タル性質ハ毫モ變スルモノニ非スシテ之ヲ借用スル者ハ負擔頗ル重ク公共ノ土木ニ關スル費用ヲ自辨シ王侯貴人ノ其地方ヲ旅行スルトキハ之ヲ應接待シ且馬車ヲ裝ヒ之ヲ送迎セサル可カラサル等ノ義務ヲ有ス之ニ反シテ「ボックランド」即チ私有地ヲ有スル者ハ「トライノグ、セレンタス」ト稱スル負擔ノ外別ニ義務ヲ帶フルコト無シ「トライノグ、セレンタス」トハ三種稅ノ義ニシテ從軍、城郭修繕及ヒ橋梁修繕ノ三負擔ヲ云フ「ボックランド」ハ任意ニ之ヲ賣讓スルヲ得ヘシ又遺言ニ由リテ之ヲ他人ニ贈與シ又更ニ相續ニ由リテ子孫ニ傳承セシムルコトヲ得タリ國王モ亦臣民ト等シク之ヲ私有スルコトヲ得ルト雖モ之ヲ處置スルニ當リテハ國王ノ資格ヲ以テセシメテ一私人ノ資格ヲ以テシテ然レトモ星移リ物變リテ「フーリッシュランド」ハ遂ニ變シテ「ボックランド」ト爲レリ就中寺院ニ寄附シ或ハ「セユン」貴族「アレン」官吏若クハ宮内官吏等一私人ニ給與シタルモノ多カリシ又「フーリッシュランド」及ヒ「ボックランド」ハ共ニ所有者ノ意思ニ從ヒテ之ヲ小作人ニ貸與スルコトヲ得此貸與シタル土地ヲ稱シテ「リインランド」ト云ヘリ

其後國王ノ權勢漸ク盛大ナルコト及ヒテ國王ヲ以テ國王ノ所有地ト看做スニ至リ終ニ「フーリッシュランド」ナル語ハ消滅シテ「アラレウス」王土ノ意ナル名稱之ニ代ハルニ至レリ此趨勢ハノルマン征服ノ後封建制度其基礎ヲ堅クシ全國土ヲ集メテ國王一箇ノ采地ト爲スニ至リテ其極點ニ達シタリ今眼ヲ轉シテ地方區劃ノ單位ヲ見ルニ「タント」稱スル土地所有者ノ集合體ヲ以テ社會ノ單位ト爲ス此「タント」ハ「アングモット」ト稱スル自由民ノ議會及ヒ「タングレフ」ト稱スル行政長官アリ此「タント」ノ集合スルモノヲ「ハンドレド」(若クハ「ワ、ベ、ン、テ、イ、ス」)ト云ヒ「ハンドレド」ハ「タングタス」氏ノ所謂「ベ、イ、ガ、ス」ニシテ元ト「サヤ」ノ國家ト爲ス而シテ「ハンドレド」ハ「タングタス」氏ノ所謂「ベ、イ、ガ、ス」ニシテ元ト「サヤ」ノ「侵來者」各百人ノ組合ヲ組織シテ各地ニ占居シタルモノニ起因ス各「ハンドレド」ニハ「ハンドレド、ゲモット」ナル議會ヲ備ヘ總テ「ハンドレド」ノ政務ヲ沙汰シ民刑ノ詞訟事件ヲ裁斷セリ而シテ其委員ハ「ハンドレド」中ノ「セユン」及ヒ「タウンソリーヴ」ト稱スル代議士並ニ各市府ヨリ選出シタル四人ノ代議士ヲ以テ組織セリ「ハンドレド」ノ行政長官ヲ「ハンドレドマン」又ハ「ハンドレドユル」

ト稱シ議會召集ノ權力ヲ有セリ此行政長官ハ其初メ衆望ニ依リ選舉セラレ
ヨリト雖モ其後遂ニ其權勢ヲ失フニ及ヒテセエン若クハ其他勢力ヲ有スル人
ノ指名ヲ以テ就職スルニ至レリ

「シャイア」ノ起因ハ甚ク太古ニ屬シ其確定ノ時期ヲ知ルニ由ナレト雖モ「ウ」セツ
スニ於テハ殆ト七世紀ノ末尼即チアルフレッド王ノ時代ニ先タテテ既ニ「シャイア」
ノ區別成立セリト云フ「シャイア」ノ政府ハ「エルダーマン」及ヒ「シ」リノト稱スル官吏
相共ニ之ヲ支配セリ

「エルダーマン」トシテ「ク」スノ所謂「プリ」ンシマス又「ノルマン」ノ所謂「コ」ムスハ其初メ
國民ノ議會ニ於テ之ヲ選舉セリト雖モ其後或ル大家族ノ占有スル世襲的ノ職
ト爲リ其後更ニ舊王家ノ世襲スル所ト爲レリ然レトモ「ノルマン」征服ノ時ニ至
ルマテ「エルダーマン」ノ任命ハ必ス國王及ヒ「ウ」タン「ノ」承諾ヲ要シタリ時トシテ
ハ一人ノ「エルダーマン」ニシテ數个ノ「シャイア」ヲ支配セシコト有リシト雖モ然レ
トモ其支配スル故ヲ以テ各「シャイア」ヲ合同混一スルコト無シ

「シ」リフ「ハ」中央政府ノ特別ナル代表者ニシテ常ニ國王ノ任命スル所ニ係リ「シャイ

アゲモット「所」會ノ議長及ヒ司法官ノ職務ヲ兼テ又王ノ領地ヲ支配セリ
初メ「シ」リフ「ハ」エルダーマン「ト」相合セテ「シャイア」ノ政治ヲ取扱ヒタリト雖モ後遂
ニ俗務ハ専ラ「シ」リフ「ノ」一手ニ歸シ軍務ハ専ラ「エルダーマン」ノ支配ニ屬シ各「其」
司ル所ヲ異ニスルニ至レリ然レトモ「シ」リフ「ノ」官職ハ「エルダーマン」ノ如ク決シ
テ世襲相傳ノ職務トナラサリシ是「ノルマン」征服後ニ於テ緊要ナル憲法上ノ結
果ヲ生シタリ蓋「ノルマン」征服後ノ國王ハ爲メニ容易ニ「シャイア」ノ政治ニ干渉ス
ルヲ得テ以テ地方封建政治ノ跋扈ヲ抑制シ中央ノ權力ヲ助長セシメザレハナ
リ

「ギルド」ギルド「ト」ハ商人、職工、慈善家等各「其」階級ノ利益ヲ保護シ若クハ特別ノ目
的ヲ達センカ爲メニ同盟セル組合ノ名ニシテ中古歐洲諸國一般ニ行ハレ殊ニ
英國ニ於テハ最モ盛ニシテ一時地方ノ政治ヲ恣ニシ人民自治ノ權利ヲ奪ヒタ
リ「タン」ハ即チ「タウン」ノ制度ト相併立シテ多少其發達ニ影響ヲ及ハセルモノ有
リ即チ「ミニ」シバル、ギルド「是」ナリ當時ノ「ギルド」ハ恰モ近代ノ「ク」ラフ「ノ」組織ニ類
似シ宗教上又ハ俗務上ノ目的ヲ以テ相團結セル組合ニシテ其種類一ニシテ足

ラス或ハ敬神ノ目的ヲ以テ團結セルモノ有リ或ハ慈善ノ目的ヲ以テ團結セルモノ有リ然レトモ其最モ市府制度ニ影響サ及ホシタルモノハ「マリーアント、ギルド」即チ商人組合トス此組合ニハ市中ノ商人悉ク加入セサルヲ得サルモノニシテ當初ノ間ハ市府ノ行政ト相關スルコト無ク獨立體ヲ爲シント雖モ其後漸ク密著ノ關係ヲ生シ遂ニ「ノルマン」征服後ニ及ヒテハ市府ノ自由民カ有シタル權カヲ奪ヒ自由ニ市府ノ政治ヲ左右スルニ至レリ有名ナル憲法史家スタクス會テ謂テク「ヘンリー」第二世ノ御宇ニ及ヒテハ「マリーアント、ギルド」有スル市府ハ其獨立ヲ維持セシ徵證ニシテ實際上「マリーアント、ギルド」ハ當時ノ行政體ナリシコト疑フ可カラスト

倫敦府ハサキソン時代ニ於テ「バ里カ佛國全體ニ對スル如キ重要ナル關係ヲ英國全體ニ對シテ有セサリシト雖モ古來一種特別ノ位地ヲ占メ政治上ノ一大要素タリ通常市府ノ制度ハ「ハンドレド」ノ制度ニ相類スト雖モ倫敦府ノ制度ハ「ロ」シヤニアノ制度ニ似タリ此府ハ古來數多ノ「ウァード」區ニ區劃セララルコト恰モ「シヤニア」ノ分レテ「ハンドレド」ト爲レルカ如シ而シテ各「ウァード」ハ「ウァード、ムード」

ト稱スル議會ヲ有シ府政ハ專之「ハッペンング」又ハ「ハステング」ト稱スル府民ノ集會之ヲ掌リ地主タル者僱侶ヲ論セシ其所有地内ニ於テ一種特別ノ轄管權ヲ有シタリト雖モ府民ノ勢力益々盛大ナルニ及ヒテ遂ニ消滅ニ歸セリ以上ハ國土ノ區劃ナリ是ヨリ國民ノ階級ニ移リテ講述スヘシ

當時最下層ニ位スル社會上ノ階級ヲ奴隸ト爲ス「ウィリアム」一世ノ時調製セル戶籍簿「ドゥムスデー、ブック」ニ據ルニ此奴隸ノ數殆ト二萬五千人ニ達シ全國民ノ十分ノ一ニ相當セシト云フ而シテ奴隸ニ二種アリ其一ハ世襲ノ奴隸ニシテ「アフリ」トシテ人ノ子孫又ハ日耳曼侵來者ノ奴隸ノ子孫若シハ自由ヲ失ヒタル自由民ノ子孫等トス其二ハ刑餘ノ奴隸ニシテ罪科ヲ犯シテ以テ奴隸ト爲レル者若クハ「ウエーヤールド」ヲ納ムルコト能ハサル者若シハ自ラ其身ヲ賣リ又ハ父母ノ爲メニ賣ラレシ者因ニ云フ父ハ其子七歳以上ニ至レハ男女ニ拘ハラス之ヲ賣渡スコトヲ得又男女十三歳以上ニ至レハ自ラ其身ヲ賣ルコトヲ得ナリ是ナリ「セルマン」人種ノ中ニ於テ貴族及ヒ通常自由民ノ區別アリシト等シク英國ニ於テモ亦同一ノ區別アリ即チ「イオール」及ヒ「セオール」是レナリ「イオール」トハ今日

ノセントルマン若クハエスクワイア即チ紳紳ノ義ニシテセオールトハセントル
 ル若クハヨーマンニシテ即チ通常人ノ義ナリイオールノ階級ハ全ク貴族ノ山
 緒アル者ニ非サレハ之ヲ占ムルコト能ハサル特別ノ階級ニシテセオールトノ
 間ニ相混ス可カラサル溝渠ヲ爲セリ然レトモ他ノセントルマン派諸邦ニ於ケルカ
 如ク英國ニ於テモ軍功ヲ以テ新貴族ニ叙任セラルルコト行ハレ終ニハ却テ門
 閥貴族ヲ壓倒スルニ至レリ蓋此軍功貴族ハ王又ハ其他ノ將帥ヨリ恩從セル一體
 即チクマクスノ所謂コミテータス嗣度ノ發達セルモノニシテ其從兵ヲグンタ
 スト云ヒ其將帥ヲフアラードト云フ此主從ノ關係ハ其後漸ク一變シテグンタ
 スノ名稱其跡ヲ絶チ更ニセエントト稱スル名稱起リタリ自由民ハ觀テ此セエ
 ヲノ位地ヲ得ンコトヲ欲シ王公ノ從臣ト爲ランコトヲ希ヘリト云フ斯クテ王
 公ノ從者タルノ事ハ遂ニ高位顯官ニ昇進スルノ門ト爲リテ其威嚴大ニ増加シ
 「セエ」ニ縉紳貴族ヲフ意味ヲ有スルニ至レリ就中王者ニ服從セル「セエ」ハ最
 上ノ位地最大ノ權力ヲ占メ長老若クハ僧正ニ奉任スル「セエ」ハ其次ニ位セリ
 然リ而シテ「セエ」ノ位地ハ又土地ノ所有ト密接ノ關係ヲ有シ貴族即チ「セエ」

ノ地位ヲ保有セント欲スル者ハ必ス多少ノ土地ヲ所有セサルヲ得サルコトト
 ナリ通常ノ自由民ト雖モ五「ハイド」ノ土地ヲ所有スルニ至レハ「セエ」ノ地位ニ
 登ルコトヲ得又四士「ハイド」以上ノ土地ヲ有スルニ非サレハ「ユルグーマン」(長老)
 ノ地位ニ登ルコトヲ得サリキ蓋シ社會上ノ階級ト土地所有トノ間ニ存スル密
 接ノ關係ハ今日ニ至ルマテ英國ニ因襲シ來レリト雖モ其泉源ハ遠ク日耳曼人
 種ノ北歐森林中ニ生活セシ時ニ發シモノト云ハサル可カラス
 「セエ」即チ「コミテータス」ノ發達ハ當時ノ社會ニ緊要ナル結果ヲ顯ハセリ蓋シ
 日耳曼元始ノ社會ニ於テハ君主貴族ノ二元素常ニ民主ノ元素ニ壓服セシレタ
 リト雖モ「セエ」ノ發達スルニ及ヒテ「セエ」ハ君權ト相連合シテ平民ノ勢力ニ
 抵抗セルカ故ニ彼此其位地ヲ轉倒シテ民主ノ元素ハ却テ貴族及ヒ君主ノ二元
 素ニ抑壓セラレ是カ爲メ主ヲ撰ヒテ之ニ臣事スルハ其初メ平民ノ隨意ニ出テ
 シモノナリト雖モ終ニ強壓的ノ制度ト化シ貴族ニ非サル自由民ハ必ス或ハ主
 ヲ撰ミア之ニ臣事ス可ク主君モ亦其臣下ヲ保護撫恤ス可キコト確然タル一主
 義トナルニ至レリ(景封建制度ノ起元トス)

自ラ其親戚ハ本人ニシテ其利所ニ出テ其主ヲ指命セシムルノ義務ヲ帯ハシム而シテ一タヒ主ヲ撰ムル之ニ奉事スルニ至レバ其主ニ至レバ其主ノ許可ヲ得ルニ非サレハ恣ニ之ヲ變更スルヲ得ス若シ又主ヲ撰ムル奉事セサル者ハ法令外者ト認ラレ逮捕監禁其他ノ虐待ニ遭フベク何人モ之ヲ保護隠蔽スルコト無シ憲法史家ケンブル氏曰ク斯ノ如クシテ社會ノ秩序漸ク一變シテ自由獨立ヲ以テ名譽ト安逸ニ代ヘ私有地ハ之ヲ其主ニ獻納シテ更ニベテフシヤ〔恩田〕トシテ之ヲ拜受スルニ至リ封建制度ノ基礎愈々堅固トナルニ至レリ蓋シ眞ナリ

〔セエン〕ノ上ニ位スルモノ之ヲ〔エルグーマン〕ト云フ蓋シ元始社會ニ於テ各種族ノ政權ハ専ラ其種族中ノ長老經驗アル人ニ屬セシヲ以テ遂ニ種族ノ長ヲ曰フ〔エルグーマン〕長老ノ人ト云ヘル意ト稱スルニ至リシト雖モ日耳曼侵來者ノ酋長各王號ヲ冒スニ至リテハ〔エルグーマン〕ノ稱號大ニ其意義ヲ狹縮シユグバトト王ヨリ以降〔エルグーマン〕トハ王若クハウイタクンノ任命セル官吏ニシテ特ニ

〔各〕シヤイア又ハ廣大ナル地方ノ知事ヲ稱スルコトナレリ其後第十一世紀ニ及ヒテ〔エルグーマン〕ナル稱號廢滅シイオル又ハアールノ名稱之ニ代リ以テ一洲一地方ノ知事ヲ意味スル事トナレリ然レトモノルマン征服後再變シテ現今ニ至ルマテ〔エルグーマン〕トハ唯市府若クハボローノ官吏ヲ指稱スルモノトナレリ

僧侶ハ當時學術智識ノ淵藪尊敬信仰ノ専有者トシテ政治上並ニ社會上最高貴ナル位地ヲ占メ最貧ノ僧侶ト雖モ尙ホセエント同等ノ位地格式ヲ有シタリ故ニ僧正ノ如キハ〔エルグーマン〕ト同等ニシテ共ニシヤイア、ムート、洲會ノ議長ノ勤メ大僧正ハ法律上ニ於テ決シテ皇族ノ下ニ出テサル地位ヲ有シタリ又通常俗人ハ最高最貴ノ人ト雖モ犯罪ノ告訴ヲ免カレンニハ自己ノ宣誓ニ加フルニ尙ホ幾多ノ證據人ヲ要セシト雖モ僧侶ニ在リテハ唯其宣誓ヲ以テ足レリトシ他ノ手續ヲ要セサリシナリ特ニ大僧正ニ至リテハ國王ト同シク一個ノ誓言ヲモ要セス唯其事實ハ云云ナリト説明スレハ足レリ

政治ニ關スル會議ニ於テ僧侶ハ常ニ顯要ノ地位ヲ占メ強大ナル威權ヲ有シタ

リ而シテ純粹ナル宗教上ノ事項ヲ議スルニ當リテハ特別ニ宗教會議ヲ開設スルコトヲ得タリ

國王、王國ハ國民ノ主宰ニシテ「キニグ」即チ「キング」ト稱シ人民ノ選舉ニ依リテ其位ニ即キ國民ヲ代表ス思フニ當時英王ノ性質ハ太古チ「ト」ニシテ風ト其後後ヘンリー二世ノ世ニ發達セル中古風トノ間ニ在リテ方ニ變遷移動ノ時期ニ在リシナリ故ニ政權ノ根本ハ尙ホ人民ノ手裡ニ存シ國王ハ唯人民ノ攝政官ニシテ獨立ノ主君ニ非サリシ殊ニ國民ノ代表者タル國會ハ嚴シク國王ノ權力ヲ制限シ國王ノ發布スル法律ハ必ス國會ノ協賛ヲ要ス可ク若シ又國會ノ許可ナクシテ國王ノ授與シタル共有地ハ之ヲ返還セシムルコト有リタリ

王權ノ發達及ヒ王ノ特權 然レトモ國土漸ク擴大ナルニ至リ「セ」ニ「貴族」漸ク發達スルニ及ヒテヤ國王ノ權威亦從テ大ニ發達増進シ王ハ國民ノ主長及ヒ代表者タルノミナラス亦實ニ國君タルノ實ヲ有シセルスタン王ノ時ヨリ以降王ニ皇帝ナル稱號ヲ冒シテ其實權ニ稱フハ至レリ然リ而シテ王ハ其皇帝タルノ資格ニ於テハ全國民及ヒ全國土ノ君主タルコトヲ表章セリト雖モ其國王タ

ルノ資格ニ於テハ國民ノ王者ニシテ國土ノ領主ニ非ス換言セバ「レ」ス、アソグ「ロ」ラム「國民ノ王」ニシテ「レ」ス、アソグ「リ」國土ノ王ニ非カリレナリ又國王ノ特權ハ頗ル洪大ニシテ從來王ノ身體ニ創傷ヲ加フル者ハ「ウ」ヤ「ヤ」ルト「ナル」罰金ヲ取ムレハ直チニ其罪ヲ免カルルヲ得タリト雖モアルフレッド王ノ時ニ及ヒテハ王ノ身體生命ニ危害ヲ加フル者ハ直チニ之ヲ死刑ニ處ス可キコトトナレリ其他王ハ王室費及ヒ儀杖費ヲ國民ヨリ徵集スルコトヲ得ヘク遺失物、破船及ヒ通航開市、鐵業鹽業等ニ關スル諸稅又ハ法外者ヨリ沒收ス可キ財貨又ハ他人ヲ創傷シタルカ爲メ辨償金ノ外上納ス可キ「ウ」テ「ナ」ル科金等ハ總テ王ノ收入ニ歸ス可キモノトス又王ハ貴族顯官ヲ支配スルノ權力及ヒ特赦ノ權力ヲ有シタリ之ニ加フルニ王ハ軍事ノ大元帥ニシテ兵役ヲ忌避スル者ハ若干ノ金額ヲ上納セシメテ以テ其義務ヲ免セシメ又或ル種類ノ犯罪ニ對シ王ハ恣ニ之ヲ處分スルノ權力ヲ有シタルヲ以テ犯罪者ノ生殺與奪ハ全ク王ノ胸中ニ存セリト云

「ウ」テ「ナ」レ「モ」ト「サ」キ「ン」ン時代ニ於テ「ク」シ「ク」スノ所謂「日耳曼」國會ニ類似シ又或ル點ニ於テハ當今英國國會ノ祖先トモ稱ス可キ一議會存在シタリ之ヲ名ツケテ

「ウチナ、ゲモット」ト云フ「ウチナ」ハ智者「ゲモット」ハ集會ニシテ即チ智者ノ集會ト云フ意
 意ナリ此議會ノ組織ニ關シテハ學者往往其說ヲ異ニシ前世紀ノ學者ハ之ヲ以
 テ毎年普通選舉ヨリ成立セル純然タル英國人民ノ國會即チ「バイリメント」ト
 ト論セシト雖也「バルクレイヴ」ハ「ジュメンタル」等ノ諸學者輩出シテ其非ナルヲ
 論破シタリ然レトモ「ウチナ、ゲモット」ハ果シテ自由民ヲ代表シテ地方議會ノ模範
 タリシモノナルヤ否ヤハ學者間未タ一定ノ說ヲ見ス蓋シ理論上此集會ハ如何
 ニ組織サレタルヤ暫ク之ヲ措テ問ハス實際上ニ於テハ全然貴族的ノ元素ヲ以
 テ組織シタル集會ナルコト明クシ何トナレハ該集會ノ議員タル者ハ國王ヲ初
 メトシテ各「シャイア」ノ知事タル「エルダーマン」國王直隸ノ「セニ」及ヒ僧正僧都等
 ニシテ國王ハ之ヲ召集管理スルノ權ヲ有シタルモノナレハナリ史家ケンブル
 ノ説ク所ニ據レハ該集會ノ議員其數最多カリントキハ百六人ニシテ時ニ九十
 名以上百名以下ノ出席亦少ナカラス特ニ王政一統「ウチセックス」ニ統テ云フ「後ニ
 於テ然リント云フ然レハ王政一統前數多ノ王國ニ分裂セル時ニ於テハ其數更
 ニ僅少ナリシコト推シテ知ル可ヤナリ之ヲ要スルニ「ウチナ、ゲモット」ハ近代ノ意

味ニ於ケル國民ノ代議院ト稱ス可カラサルヤ勿論ナリト雖モ當時之ヲ以テ全
 國人民ト一般ノ輿論ヲ代表スルモノト認メタルヤ疑フ可カラズ

「ウチナ、ゲモット」ノ權力「ウチナ、ゲモット」ノ權力ハ甚ク宏大ニシテ今日英國國會ノ
 有スル權力ニモ尙ホ一步ヲ進スルモノ有リ今其大要ヲ列舉セハ左ノ如シ

第一 國王ヲ廢黜スルノ權

「ウチナ、ゲモット」ハ國王ヲ廢黜スルノ大權ヲ有セリ蓋シ此大權ヲ使用スルコトハ
 事甚ク容易ナラサルヲ以テ其使用甚ク頻繁ナラザリント雖モ又之ヲ實行セシ
 例少ナカラス即チ「ノーマン」王國ニ於テ紀元七百六十五年「エセルワル
 D」王同七百七十四年「アルクレド」王ヲ廢セル事又「ウエストサクソン」王統ニ在リテ
 ハ「ノルマン」征服前ニ於テハ七百五十五年「ゲバート」王及ヒ紀元一千十三年「エ
 セルレド」二世同「一千三十七年」ハ「アカニ」ト王ヲ廢セル事又「ノルマン」征服後
 ニ及ヒテハ「一千三百二十七年」エドワード二世「一千三百九十九年」リチャード三世
 及ヒ「一千六百八十八年」セームス二世ヲ廢セル事等是トリ

第二 國王ヲ選舉スル權

古代チキトニク派ノ王國ハ皆其國王ヲ選舉スル習慣ナリシト雖モ各王國皆一定ノ王族ナルモ存在シタルヲ以テ議會ハ該王族中ヨリ最適任ト信スルモノヲ選舉スルノ權力ナ有シタリ而シテ丁年ニ達シ其シキ缺點アルニ非サレハ先王ノ長子ヲ選ミテ即位セシムルコト常例ナリシト雖ヒ昔シ時變ニ際シ英逸絶倫ノ王者ヲ要スルトキハ必スシモ長幼ノ序從來ノ常例ニ拘泥スルコト無ク尊ヲ年功アル者ヨリ選舉セシコト少ナカラス例ヘハ紀元八百六十六年ニ於テエセルレド一世ハ其兄ノ長子ヲ超ヘテ王位ニ登リ崩スルニ及ヒテ其子尙幼ナリシヲ以テ實弟アルフレドヲ即位セシメタルカ如キハ其一例ナリ其他枚舉ニ迫アラズ

- 第三 國王ト共ニ法律ヲ制定シ及ヒ租稅ヲ賦課スルノ權
- 第四 外國ニ對シ同盟ヲ結ヒ平和ノ條約ヲ締結スルノ權
- 第五 必要ノ場合ニ當リ海陸軍ヲ募集スルノ權
- 第六 「フョラノド」ヲ分配許與スルノ權
- 第七 僧正知事其他ノ高等官ヲ任免勅陞シ宗教上ニ關スル諸法令ヲ實行セシ

ムル權

- 第八 民刑ニ關スル最高法院トシテ諸裁判ヲ執行スルノ權
- 第九 罪人ヨリ沒收セル土地及ヒ嗣子若クハ遺言ナクシテ死セル者ヨリ其土地ヲ沒收スル權

以上判擧スル所ヲ見レハ當時ウキアナグモットハ萬機ニ參與スルコトヲ得シヤ疑ヲ容レス然レトモ時ニ國王ノ性質及ヒ勢力ノ如何ニ因リ議會ノ權力ヲ伸縮消長セシメタルコト有リシヲ以テ議會ハ常ニ此ノ如キ大權ヲ掌握セシモノト思フ可カラス彼ノアルフレド王及ヒエセルクンノ如キ有爲ノ君主ハ其王權ヲ以テ議會ヲ左右シ其欲スル所ヲ行ハシメタリ而シテサキソン時代時ノ終ニ及ヒテハ從來國王ト議會ト相共有シタル權力ヲ遂ニ國王ノヨリ之ヲ掌握スルニ至レリ然レトモ立法及ヒ非常課稅ノ二大權利ニ至リテハ國王志ニ之ヲ行フコトヲ得ス必スウキアナグモットノ協賛ヲ經サル可カラザリヤト云フ

司法制度 以上ハサキソン時代ニ於ケル國會ノ概略ナリ今一步ヲ進メテ當時ノ司法制度ハ如何ニ在リシカヲ究メン抑サキソン時代ニ於ケル司法上ノ大主

義トシテ見ル可キモノハ訴訟上ノ審理ハ民主的ノ組織ニ係ル地方裁判所ニ於テ之ヲ行ヒ敢テ遠隔未知ノ法廷ニ之ヲ託スルコト無カリシコト是ナリ古來自由ノ氣英人中ニ磅礴セシ徵候ヨシテ而モ亦其自由ヲ永遠ニ保持スルヲ得タル最良法タリシナリ

「フリスボー」即チ「フランク、ブレッザ」地方裁判所ノ組織ヲ陳述スルニ先タテ地方人民犯罪者ノ連帶責任ニ關シテ一言センニ犯罪者ヲ裁判所ニ出頭セシム可キ連帶責任ハ元ト「ミーグス」ト稱スル親族ヨリ成立セル一小社會ノ荷フ所ナリシカ彼ノ「ギルド」ト稱スル組合制度ノ興ルヤ該連帶責任ハ是ニ移シ後又一轉シテ「タイシング」ト稱スル部落ニ歸セリ然ルニ「ノルマン」征服ノ頃ニ及ヒテ別ニ「フリスボー」即チ「フランク、ブレッザ」正直ニ保證スルトノ意ト稱スル制度起リ「フワホ」ト「貴族」ニ非サル自由民ハ皆「フリスボー」十人組合ノ意ノ内ニ編入セラレ其組合中ニ有ル犯罪者ヲ法廷ニ出頭セシム可キ責任ヲ負ハサル可カラサルニ至レリ而シテ此組合ノ長タルモノヲ「ボースユルダ」若クハ「タイシングマン」ト云フ犯罪者ハ己レノ財産ヲ以テ其罪ヲ償ヒ又ハ相當ノ刑罰ヲ受シルコト勿論ナリ

ト雖モ若シ犯罪者逃亡スルトキハ其犯罪者ノ屬スル組合人一同ハ連帶責任ノ理ニ由リ該犯罪者ヲ逃亡セシメタル怠慢ノ結果ニ對シ相當ノ罰金ヲ科セラルルモノトス此組合責任制度ノ外尙ホ「フワホ」即チ貴族ハ其從臣ノ犯罪ニ對シ責任ヲ負擔ス可キ規定アリエセルスタン及ヒエドガー王ノ法律中往往之ヲ掲載セリ

「ハンドレド」及ヒ「シャイア」ノ裁判所

地方裁判所中其重モナルモノヲ擧クレハ「ハンドレド」及ヒ「シャイア」ノ二法廷是ナリ「ハンドレド」裁判所ハ毎月一回開庭シ「ハンドレドマン」ト稱スル官吏是カ所長ニシテ其裁判官タル者ハ元ト「ハンドレド」中ノ地主全體ナリシト雖モ其後便宜上ヨリ地主中ニ於テ十二人若クハ十二人以上ナルトキハ其倍數ノ委員ヲ選定シ以テ裁判權ヲ使行セシムルコトナレリ「ハンドレド」法廷ハ總テ民事及ヒ刑法ニ關スル訴訟ヲ裁判シ起訴者ハ高等裁判所ニ控訴スル前必ス先ツ此法廷ノ審判ヲ仰カサル可カラサル成規ナリ

次ニ「シャイア」法廷ハ之ヲ「シャイア、ゲモット」ト稱スル「ノルマン」征服後ノ所謂「カウンター

コート(州裁判所)是ナリ(シャイア、ゲモット)ハ管ニ(シャイア)ノ法廷ナルノ事ナラス亦其人民ノ議會ナリシナリ(シャイア、ムート)ハ毎年二回(シャイア)之ヲ召集シ(エルダーマン)僧正及ヒ其他官吏全體、土地ヲ所有スル貴族、各市府ヨリ代表セル(リヴ)役名四名ノ議員及ヒ各(パリス)ノ僧侶ヲ以テ組織セラルルト雖モ(ハンドレド)法廷ニ於ケル如ク多數ノ裁判官ヲ要スルハ頗ル不便ナルヲ以テ平生ハ十二名ノ長老セエ(チン)ヲ訟獄ヲ斷セメタリ

(シャイア)裁判所ノ司法權ハ頗ル洪大ニシテ國家ノ大臣若クハ國王直隸ノ(セエ)等ニ關スル訴訟ヲ除キ其他ノ訴訟ハ大抵之ヲ裁判スルコトヲ得タリ然レトモ其裁判ヲ受ケントスル者ハ先ツ(ハンドレド)裁判所ニ出訴シ其裁判ニ不服ナル者ナラサル可カラス又(シャイア)法廷ノ審判ヲ經テ之ニ不服ナルモノハ非ス(ハ國王)ノ裁判ヲ請求スルヲ得ス

ノルマン征服ノ後巡廻裁判ノ制度起ルニ及ヒテ(シャイア)裁判所ノ權力頗ル凋衰セリト雖モ一方ニ於テハ大事件ニ非サル民事ノ訴訟ニ關シテハ長ク其司法權ヲ保テ他ノ一方ニ於テハ(シャイア)中地主ノ代議會トナリ以テ國王並ニ貴族ノ權

力ヲ制限シ英國自由ノ基礎ヲシテ發揚強固ナラシムルニ與リテ大ニ力アリ

「コムバリーグーシオン」及ヒ「オーブール」

「サキソン」時代ノ裁判所ニ於テハ事實ノ審問糾彈ヲ行フニ當リ二箇ノ奇法ヲ用ヒタリ曰ク「コムバリーグーシオン」曰ク「オーブール」是ナリ

「コムバリーグーシオン」トハ誓言ヲ以テ辯解證明スルノ義ニシテ被告タル者其身ノ無罪ナル所以ヲ立證スルカ爲メ自己ノ誓言ニ加フルニ十二人ノ親戚若クハ隣人ヲ出廷セシメ以テ被告ノ性質辯解ノ信憑スルニ足ルコトヲ證明誓約セシムルノ方法ナリ而シテ其證明者トシテ法廷ニ出席シ被告ノ無罪ナルコトヲ證明スルモノナリ「コムバリーグーシオン」ト云フ此ノ立會證明ノ制度ハ元ト白耳曼派ノ諸國ニ流行セシト雖モ其證明人ノ人員ニ至リテハ各、相同シカラス又證明人ノ誓言ハ其人ノ地位ノ高低及ヒ財産ノ多寡ニ依リテ法律上ノ價值及ヒ信用ヲ異ニセリ即チ(エルダーマン)二人ノ誓言ハ(セエ)六人ノ誓言ト其價值ヲ同クシ又セエ二人ノ誓言ハ(セオル)十二人ノ誓言ト其價ヲ等シクセリ若シ被告ニシテ貴族ノ家臣ナルトキハ其主人自ラ法廷ニ出頭シテ之カ爲メ誓言ヲ爲スヲ得タリ

ト雖モ若シ其誓言ニシテ家臣ノ爲メ不利ナルトキハ家臣ハ之ニ對シテ通常ヨリ三倍ノ證明人ヲ出シテ己レノ利益ヲ保護證明セサル可カラズ若シ之ヲ爲ササルトキハ通常ヨリ三倍ノ呵責ニ服ササルヲ得ス此呵責法ヲ稱シテ「オーブヒール」即チ神判ト云フ然リ而シテ此證明法ハ常ニ之ヲ許シタルモノニ非ス若シ犯罪ノ證據ニシテ蔽フ可カラサルトキハ此方法ニ依リア罪ノ有無ヲ判斷スルモノトス

神判ノ種類ニ三種アリ即チ第一烙鐵第二熱湯若クハ冷水ヲ用ユル法及ヒ第三惡食ヲ喰ハシムル法是ナリ神判ハ冷水ヲ用ユル時ノ外常ニ寺院ニ於テ之ヲ行ヒ僧侶之ヲ監督セリ總テ神判ハ脅迫的ノモノニシテ第一犯罪者ニ於テ定數ノ證明者ヲ出廷セシムルコト能ハサル場合第二犯罪者ニ於テ曾テ既ニ法廷ヲ欺キタル嫌疑アル場合第三犯罪者自由民ニ非スシテ其主人無罪タルコトヲ證明セス又「ウエヤーギルト」ヲ拂フテ之ヲ償ハサル場合等ニハ必ス之ヲ行フモノトス前記證明人ノ外尙ホ賈買等民事ニ關スル事實ヲ證明センカ爲メ法律ニ依リア設ケタル證據人ノ一種アリ其法恰モ現今ノ公證人ト彷彿タルモノナリ

「ウエヤーギルト」命代金

人ノ生命ヲ奪ヒ若クハ其身體ヲ創傷シ若クハ其財産ヲ損害スル者ハ相當ノ償金ヲ出シテ其罪ヲ償フヲ得ヘシトノ主義ハ歐洲北部諸邦ニ於テ一般ニ行ハレタリシヲ以テ日耳曼侵入者モ亦此主義ヲ英國ニ輸入セリ抑此主義ニ依ルトキハ人命ハ一定シタル金錢上ノ價值ヲ有シ殺害サレタル者若シ自由民ナルトキハ其親族「ウエヤーギルト」ヲ受取り若シ又奴隸ナルトキハ其主人之ヲ受取ルモノトス而シテ「ウエヤーギルト」ノ額ハ被害者ノ地位階級ニ從フテ各差等アリ即チ被害者若シ「セオル」ナルトキハ其命代金二百「シルリング」小「セエン」ナルトキハ六百「シルリング」國王直隸ノ「セエン」ナルトキハ千二百「シルリング」ニ「エルグーマン」ナルトキハ直隸「セエン」ノ命代金ニ二倍シ王族ナルトキハ之ニ三倍シ國王ナルトキハ通常之ニ六倍ス然レトモ犯罪ニシテ若シ殺戮ニ非ス單ニ身體ノ創傷ニ止マルトキハ「ポット」ト稱スル償金ヲ拂フテ其罪ヲ免カルルコトヲ得而シテ此償金ハ創傷ノ大小輕重ニ因リテ其金額ヲ異ニス又國王ハ別ニ「ウイア」ト稱スル罰金ヲ科シテ以上ノ如キ各種ノ犯罪者カ公安ヲ妨害スルトキ之ヲ懲罰スルノ權ヲ有

セリ其後刑罰漸ク嚴酷トナリ死刑又實行セラルルニ至リト雖モ刑罰ノ寬嚴ハ當時ノ人民ヲ駕馭牽制スルニ足ラス公安ヲ破リ私闘ヲ行フ者其數甚ク多ク又復讐ノ如キモ尙ホ盛ニ流行シ是非ヲ法律ノ判斷ニ問ハスレテ相互ノ腕力ニ訴ヘ一朝ノ怨恨相累リテ數世子孫ニ至ルモノ少カラザリト云フ

余ハ以上ノ講述ニヨリノルマン征服前五百年間ニ於ケル英國憲法制度ノ大綱ヲ示シタルヲ以テ今ヤ章ヲ轉シテノルマン征服後ノ憲法史ニ移ラシメ之ヲ要スルニサキソン時代各地方ニ於ケル風俗習慣ハ千種萬別ナル可シト雖モ其憲法上ノ大主義ニ至リテハ以上ノ陳ヘタル所ト異ナルコト無シ蓋シノルマン征服前「アングロサキソン」ノ社會ハ人ヲ基礎トセル組織ヨリ土地ヲ基礎トセル組織ニ發達セントスル時期換言セハ太古チートニクノ制度ヨリ中古封建ノ制度ニ移ラントスル變遷ノ時期ニテ在リシナリ惟フニ上古ニ於ケル社會組織ノ基礎ハ全ク人ト人トノ關係ニシテ土地ニ關スルコト無カリシナリ故ニ自由民ハ當時社會ノ最要要素ニシテ王ハ其種族ノ長タリト雖モ邦土ノ長タルコト能ハザリ

其後チートニク人種ブリタニオンヲ征服スルニ及ヒテ此ノ如キ純粹ナル人身

上ノ組織一變シテ邦土上ノ關係漸ク生シ土地ノ所有スルコト自由民ノ資格ニ於テ必要缺ク可カラサル一條件トナレリ然レトモ土地ヲ所有セサル者亦其主ヲ撰ミテ之ニ仕ヘ又隨意ニ其主ヲ變スルコトヲ得シノミナンス此等ノ自由民ハ政治上ニ於テ貴族ト同等ナリシヲ以テ考フレハ此第二發達ノ時期ニ於テハ人身上ノ基礎未タ全ク廢セラレザリシヲ見ルニ足ル可シ

進ミテ第三期ニ及ヒテハ全ク土地ヲ以テ其社會組織ノ基礎ト爲シ諸侯ハ其領地ノ所有者ニシテ其從臣ハ其領地ノ幾分ヲ受領シテ之ヲ耕作シ土地授受ノ關係ニ依リテ君ハ其臣ヲ保護撫恤シ臣ハ其君ニ忠誠ヲ致スノ義務ヲ生シ國王ハ獨リ國民ノ王タルノミナラス亦國土最上ノ領主トナルニ至リ封建制度益々完備セリ然レトモノルマン征服前サキソン時代ニ於テハ社會未タ第三期ニ達セザリシヲ以テ人ヲ基礎トスル種族制度尙存シ王ハ英國人民ノ王ニシテ英國國土ノ王ニ非ザリシ其全ク國土ノ領主トナルニ至リシハノルマン征服後封建制度全然發達セシ時代ニ在リ

第二章 ノルマン征服

余ハ以上ノ陳述ニ由リサクソン時代ノ憲法ニ關スル緊要ノ諸制度ヲ略シテ終リタルヲ以テ是ヨリ進ミテノルマン征服ノ事件及ヒ其結果ニ付講究セント欲ス

王位繼承ノ争及ヒ憲法上ノ結果

千六十六年一月五日エドワードコンフニソル王崩スルヤ吾ヤ王位相續ノ葛藤起レリ今其次第ヲ尋ヌルニ當時正當ノ相續者タルエドガーエセリング尙キ幼冲ニシテ且性暗愚ナルノミナラス當時ノ國勢上ヨリ之ヲ見ルモ英邁非凡ノ君主ヲ要セシヲ以テ先王崩スルニ臨ミ遺言シテエドガーヲ退ケテ當時全國無比ノ勇將ニシテ然モ經世ノ才略ニ富メルハロルド公ヲ以テウヰテナゲモトニ推薦シタリ此ニ於テウヰテナゲモトハ先王ノ遺言ヲ容レハロルド公ヲ立テテ英王ト爲シヨールノ大僧正エルドレド之ニ加冠シテ即位ノ禮ヲ行ヒタリ然ルニ先王ノ從弟ニノルマンデー公ウヰリヤムナル者アリ曾テ先王ト結ヒタル契約ニ

基キ自ラ英王ノ位ヲ襲フ可キ權利アリト主張シタリ蓋シ先王若シ此ノ如キ契約ヲウヰリヤムニ爲シタリトスルモ其崩スルニ臨ミハロルドヲ立テテ英王ト爲ス可キ事ヲ遺言セシ以上ハウヰリヤムニ對スル前約ハ既ニ自ラ消滅ス可キモノトス加之ナラス英王タル者ハ其王國ニ對シ恰モ其私財ニ對スルカ如ク契約若クハ遺言ヲ以テ溢リニ處分ス可キ憲法上ノ權利ヲ有セサルカ故ニ設令先王此ノ如キ契約ヲ結ヒタリト假定スルモ其契約ニテ未タウヰリヤムナケモトノ承記ヲ經サル以上ハ是唯一个ノ私約ニシテ未タ之ヲ以テ公然相續ノ權利アリト主張スルコトヲ得サル可シ然レトモウヰリヤムハ固ク先王ノ契約ヲ主張シテ動カス當時恰モ英國國教ノ獨立ヲ忌ミ之ヲ壓倒セント企テタル羅馬法皇ト相結ヒ其認許ヲ得大軍ニ將トシテ英國ニ侵來シ紀元千六十六年十月十四日大英軍トセンラックニ戰フノ之ヲ破リハロルド及ヒ其二兄弟並ニ許多ノ貴族皆之ニ死セリ倫敦府民ハ此敗軍ノ報ヲ得テ大ニ驚キ直ニ相議シテエトガーエセリングヲ立テテ英王トナシ再ヒウヰリヤムニ抗セント隱モ英軍ノ組織其宜シキヲ得ス且人心一致セサリシヲ以テ遂ニ之ニ敵スルコト能ハス人心洶洶トシテ

亦爲ス所ヲ知ラス此ニ於テウキテナ、ゲモトハ止ムコトヲ得ス紀元千六十六年十二月二十五日クリスマス祭日ニ於テウキリヤムヲ戴キテ英王トナシ大僧正エルドレド之ニ王冠ヲ加フルニ至リウキリヤムモ亦其當初ノ口實ニ從ヒ英人ノ王タル稱號ヲ得シ古典ニ從フテ即位ノ誓約ヲ行ヘリ

此ノ如クウキリヤムハエドワード、コンラッド、ソルノ正當ナル相續者トシテ英王ノ位ニ登リシヲ以テ其實際ニ於テハ戰勝者トシテ專制ノ政治ヲ行ヒタルニ拘ラズ理論上ニ於テハ憲法ニ適合セル英王ニシテ勢英國古來ノ慣例法律ヲ尊重セサルヲ待サリシ故ニノルマン征服ノ爲メ英國憲法ハ其連環ヲ斷絶シケルモノニアラス勿論ノルマン征服ノ事タル英國人民ノ歴史中一大轉折時期則チ第一段落アリシニ相違ナキモ直チニ之ヲ以テ新奇ノ發見點即チ新歴史ノ起原ト認ム可カラサルナリ此故ニ前代ノ法律ハノルマン征服後ニ至リテ多少ノ變更アリシト雖モ其大體ニ至リテハ更ニ異ナル所ナク又政府公用ノ文書ノ如キモ前代ト同一ノ言語ヲ用ヒ其他ウキリヤム並ニウキテナ、ゲモトノ權力モ憲法上前代ニ異ナル所ナシ

ノルマン人ト在來英人トノ混合ニ就キテ

ノルマン人英國ニ侵入シ之ヲ征服シテ在來ノアングロサクソン人等ト相混和セルヨリ人或ハノルマン人ヲ以テ現今英國人民ノ組織セル四大元素ノ其一ナリト爲スモノ有リト雖モ是誤レリト云ハサル可カラズ蓋シノルマン人ハ單ニ混和ヲ爲センノミ未タ以テ一大元素ト爲スニ足ラサルナリ彼ノ百有餘年間ニ於テゲル、及ヒ、ゲニ、ニニ元素カアングロサクソン人種ノ爲メ容易ニ吸收セラレタルト等シクノルマン人モ亦アングロサクソンノ爲メ容易ニ混合吸收セラレタルナリ加之ナラスノルマン人ハ元トアングロサクソン人ト同シク日耳曼即チアノートニツク人種ノ分派ニシテ畢竟サキソン人ハスカンアヒアヒヤリヲ直チニ英國ニ渡來セシモノルマン人ハ殆ト百五十年間佛國ニ滞在シ然ル後英國ニ侵入セシヲ以テ其渡來ノ時期ニ前後ノ差違アルト且ノルマン人ノ佛國ニ在ルヤ當時羅馬風ニ化シタルゴール及ヒフランクノ文明及ヒ言語ニ感染シタルヲ以テ其古國スカンテヒヤ並ニ新來ノ英國トハ大ニ異ナリタル發達ヲ爲セルニ過キササルナリ又當時ノ英人ヨリ之ヲ見ルモノルマン人ハ決シテ相知

ラサル人種ニ非スシテ征服前ニ於テハ既ニノルマンノ風俗ヲ模倣セルモノ頗ル多ク王侯貴人ノ遠クノルマンデーニ遊學セル者ノルマン人ニシテ英國ニ仕官シ若クハ財産ヲ有セル者亦少ナカラズ且ノルマンデーニ於テ行ハレタル佛國語ハ亦英國ウエストミニスター王宮ニ於テ行ハレタル等ノ事實ヲ以テ見ハノルマン人ノ侵入ハ新ニ一大元素ヲ國民ノ上ニ加ヘタルモノニ非スシテ全ク同一元素ノ混和ト云ハサルヲ得ス

ノルマン征服ノ結果

ノルマン征服ヨリ發生セシ直接ノ變動ハ固ヨリ甚々洪大ナリシト雖モ其變動タルヤ多クハ表面形體上ニ存セスシテ寧ロ裏面實際上ニ在リトス蓋シ是ヨリ以後國王ノ權力漸ク旺盛ナ極メ中央集權ノ勢熾ニ赴キ彼ノキートニ國憲ニ固有ナル地方自治ノ制度ノ如キモ爲メニ一時消滅ノ運命ニ遭遇シ其後貴族平民相連合シテ國王ノ壓制ニ抵抗スルニ至ルマテ再ヒ發生スレテ得サリ又英國社會上ノ組織ヲ見ルニ其變動ヲ蒙レルモノ蓋シ揚ナオラス尙王統其祀

ヲ絶チ外來ノ王統之ヲ承ケ舊貴族亡滅シテ新貴族之ニ代リ其他官名ノ如キモ多少ノ變更ヲ爲シ從來ノ「エルダーマン」即チ「アール」ヲ變シテ「コムスト」云ヒシ「フ」ヲ變シテ「グ」イヌコムストト稱スルニ至レリ又舊法律ノ如キモ之ヲ保存セシニ拘ラス新奇ノ諸名稱ヲ用ヒ外來ノ官吏之ヲ施行セシテ以テ實際ニ大ニ矯正變革スル所アリシハ疑フ可カラズ然レトモ就中ノルマン征服ヨリ發生セシ結果中其最要最大ナルモノヲ舉クレハ即チ封建制度ヲ建設セシ事是ナリ蓋シウサリヤムハ英國ヲ征服ヒシ後サキソノ貴族及ヒ自由民ノ所有地ノ漸漸沒收シテ自ラ其大部分ヲ所領シ其殘餘ヲ以テ己レニ從軍セシノルマン貴族ニ賞與シテ

今ツサリヤム王カ封建制度ヲ建設シタル事跡ヲ見ルニ其政策措置甚々攻勢ニシテ敢テ急激ニ走ラス漸ク遂フテ進ミ機ヲ見テ動キ遂ニ能ク種子不動ノ基礎ヲ立ツルニ至レリ故ニ其初メニ當リテハ勉メテ穩當著實ノ體面ヲ裝ヒ擅ニサキソノ貴族ノ領地ヲ奪掠スルカ如キ事ナク唯僅ニ舊王家ノ領地及ヒゴドウサソノ家ノ采地並ニウサリヤムニ背反セシ者若クハ背反ノ嫌疑アル者ノ所領ヲ沒

收シ其内千四百有餘ノ洪大ナル土地ヲ以テ自家ノ所属ニ歸セシメ其餘ハ總テ之ヲ其隸屬セルノルマン貴族ニ分配セリ王ハ又サキソン人全體ヲ認メテ多少謀反ノ徵候ヲ有スルモノト做シ又會テ己レニ對シテ干戈ヲ採リタル者若クハ己レニ左袒協力セサリシ者ノ領地ヲ沒收スルコトト爲セリト雖モ俄ニ之ヲ處置スルコト無ク其所領者ノ過半ハ依然其采地ヲ所有スルコトヲ許可シテ然レトモ此等所領者ノ内其位置階級ノ高貴ナル者ハ皆新ニ服從ノ誓言ヲ爲シ一旦其所領ヲ王ニ獻納シ再ヒ王ヨリ受領セシメ其小領ノ所有者ニ至ラバ別ニ獻金ヲ奉呈シテ之ヲ所有スルコトヲ得セシメ此方法ニ依リ王ハ終ニ足跡未タ普カラサル邊僻ノ地ニ至ルマテ總テ之ヲ其治下ニ服セシメタリ然ルニ其後ウキヤム始メテ本國ノルマンデーニ歸省スルニ及ヒテ其不在中王ニ代リテ攝政タリシオード及ヒウキリヤム、フイツ、オスバーンノ二人攝政ヲ行ヒシカ爲メ大ニサキソン人ヲシテ激昂セシメ遂ニ兵ヲ所在ニ舉ケテ王朝ニ抗スルニ至ラシメタリ此ニ於テウキリヤム直チニ英國ニ歸リ爾後殆ト四年間内亂鎮定ノ爲メ寧日ナカリシ而シテ王ハ此等ノ暴徒ヲ平定スル毎ニ其領地ヲ沒收シ更ニ封建

借地法ニ依リテ之ヲ其從臣タルノルマン貴族ニ分配シ以テ漸ク封建制度ヲ完全ナラシメタリ

今觀リテ歐洲大陸諸邦ニ於ケル封建制度發達ノ次第ヲ見ルニノルマン征服ノ當時ニ在リテハ封建制度ノ根源タル佛國並ニ其他ノ諸國ニ於テモ已ニ封建制度大ニ發達シタルヲ見ル今該制度ノ由來ヲ考究スルニ其源ヲ羅馬及ヒ日耳曼ノ二元素ヨリ發シ之ニ加フルニ一時羅馬ニ於テ行ハレタル(ユール)シフクテユワリ(所有法)即チ土地ヲ所有スル權ナク唯之ヲ使用シテ其生産物ヲ收穫スル權利アル一種ノ借地法及ヒ邊境ノ土地ヲ兵士ニ分與シテ軍務ニ服從セシメタル屯田ノ習慣預リテ其遠因タルニ相違ナシト雖モ其最も直接ノ主因タル可キモノハ第一フランク王國ノ下ニ發生セシ自己ノ土地ヲ帝王ニ奉還シ更ニ之ヲ恩田トシテ受領スルノ制度及ヒ第二之ト相關係シテ自ラ其身ヲ帝王ニ推舉シ其從臣タル可キ誓約ヲ爲スノ法是ナリ

英國ニ於テモ封建制度ハ夙ニ發生セリト雖モ其發達ノ情況一層緩慢ニシテ歐洲大陸諸邦ノ封建制度カ羅馬風ノ影響ヲ蒙リシモノニ比スレハ寧ロ一層ナリ

トニク風ヲ保存セリ思フニ封建制度ノ原質材料ハ既ニノルマン征服前ニ於テ存在セシト雖モ其一个ノ制度トシテ成立スルコトモリタルハ實ニノルマン征服後ニ在リト云ハサル可カラズ

凡ソ封建制度ニ必要缺ク可カラザラモノ二アリ其一ハ君臣互ニ信義ヲ盡シ君ハ臣ヲ愛護シ臣ハ君ニ忠事ス可キ雙互ノ契約ヨリ生スル君臣ノ關係ニシテ其ニハ邦土ハ總テ君主ノ專有ニ屬スト雖モ臣民ニ於テ有事ノ日ニ當リテ從軍ノ義務ニ服ス可キ報酬トシテ其土地ノ使用權ヲ得ルコト是ナリ此ニ要素相合シテ始メテ封建制度ヲ完成スルモノニシテ其一ヲ缺クトキハ則チ不可ナリ蓋シ上古日耳曼種族ノ間ニ行ハレタル「フリンシベス」ト「コマイツ」トノ關係若クハ英國サキソン時代ニ於テ行ハレタル「フワホード」ト「セユン」トノ關係ノ如キハ前記封建制度第一ノ元素タル可キモノニシテ臣下ハ其私有ノ土地ヲ主君ニ奉還シ而シテ再ヒ之ヲ受領スルノ習慣當時一般ニ行ハレ主君ヲ有セサル者ハ法外者トシテ輕蔑虐待セラレタル事ハ前既ニ之ヲ陳述セリ又英國ニ於テ「フワホード」カ其從臣ニ附與スルニ土地ヲ以テ山リテ約スルニ從軍ノ義務ヲ負擔ス可キ

コトヲ以テセシメタル事モ亦既ニ之ヲ述ヘタリ第十一世紀ノ初メニ至リ英王ハ「ウサデナ、ゲモット」ノ承諾ヲ經スシテ「フォールランド」即チ公有地ヲ恣ニ其從臣ニ分與スルノ權ヲ把握シ又「サフインフ」イ「グデーシ」ト稱シ土地受領者其領地ノ幾分ヲ更ニ其臣下ニ轉借スル法及ヒ「コンメンダシ」ト稱シ土地所有者其所有地ヲ或ル主君ニ推舉獻上シテ更ニ再ヒ之ヲ受領スルノ法行ハルルニ及ヒテ英國國土ノ大部分ハ封建借地法ニ依リテ所領シ私有制度ハ唯小部者ノ特權ニ屬シ以テ二者ノ間其區別判然タルニ至レリ然リ而シテ此時ニ至ルマテ封建ノ制度唯土地借地法ノミニ關係セシト雖モ後世カンユート王及ヒエドワードコソフソル王カ全國ヲ分割シテ之ヲ三三大諸侯ニ分與シ而シテ此等ノ大諸侯ハ往徃其領地ノ支配權ヲ子孫ニ傳フルヲ得ルニ至リテ封建ノ制度更ニ一歩ヲ進歩セリト云フ可シ想フニ若シノルマン征服ノ事件ニシテ微リセハ歐洲大陸ニ發達セル封建制度ト殆ト一樣ノモノ英國ニ發達セシヤ疑ナシ
ウサリヤムハ佛蘭西王國及ヒノルマン「ド」公領ニ於テ既ニ封建制度ニ附著スル弊害ヲ熟知セリ加之ナラス王ハ會テ放恣驕傲ナル諸侯ト紛爭ヲ釀シ具ニ幸

駿ヲ嘗メタルヲ以テ英國ニ於テハ成ル可ク此等ノ弊害ヲ豫防セント欲シ主ト
 シテ封建制度自然ノ發達ヲ矯メンコトニ盡力セタリ又王ハ單ニ封建ノ君主ト
 ルノミナラス又英國國民ノ王トシテ君臨セシ事ヲ欲シ總テ封建制度ヨリ生ス
 ル所ノ利益ハ悉ク之ヲ收ムルト同時ニ彼ノ封者制度ニ最モ緊要ノ習慣タル臣
 ハ其主君ニ對シテノミ専ラ忠誠ヲ盡ス可キ義務ヲ負フモノナリトノ規則ヲ打
 破シ一般ノ地主及ヒ借地人タル者ハ總テ英國古例ニ則リテ國王ニモ忠誠從順
 ナル可シトノ誓約ヲ爲サシメタリ之ヲ要スルニウヰリヤムカ封建制度ヲ設立
 スルニ當リ諸侯ノ跋扈ヲ防キ王權ノ強盛ヲ謀リタル政策ニ付キ其最モ注意留
 心ス可キ要點ヲ列擧スレハ第一間接受領者ヲシテ己レニ對シ忠誠ヲ致ス可キ
 誓約ヲ爲サシメタルコト第二諸侯ノ支配權ハ一州ヲ越ヘサルノ制ヲ立テ以
 テ其權勢ヲ減殺シタルコト第三諸侯ノ領地ヲシテ各地方ニ散在セシメタルコ
 ト是ナリ然リ而シテ其第一策ハ王權ヲ旺盛鞏固ナラシメタリト雖モ其第二策
 三ノ二策ハ却テ諸侯ヲシテ平民ト相連合シ王權ニ抵抗スルノ結果ヲ生スルニ
 至ラシメタリ

封建借地受領法ウヰリヤム第一世及ヒ其子ハーフハスノ時代ニ於テ漸ク英國
 全土ニ行ハルルニ至リタル封建借地受領法カ英國ノ政治上並ニ社會上ニ及ホ
 シタル影響ハ蓋シ其關係スル所甚ク永遠洪大ノモノタルヲ以テ苟モ英國憲法
 及ヒ法律ノ發達沿革ヲ究メント欲スルモノハ決シテ之ヲ輕輕ニ觀過ス可カラ
 サルナリ抑封建借地受領法ハ後世チールス二世ノ時ニ至リ國會ノ議決ヲ以テ
 之ヲ廢止セント雖モ其精神ハ今日ニ至ルマテ尙ホ依然トシテ存シ英國ノ法律
 ハ理論上人民所有ノ土地ヲ以テ間接若クハ直接ニ國王ヨリ受領シタルモノナ
 リト認定スルカ如キ或ハ又不動産相續ニ關シ長子相續ノ法ニ遵由スルカ如キ
 皆封建ノ遺習タラスンハアラス
 次ニ封建義務ニ關シ一言センニノルマン征服以前ニ於テハ英國土地所有者ハ
 總テトライノダテセシタスト稱シ僅ニ城廓ノ修繕橋梁ノ修葺及ヒ兵役等二種
 ノ課税ヲ負擔スルニ止マリシト雖モノルマン征服後ニ及ヒテハ更ニ許多ノ負
 擔ヲ増加シ直接受領者ハ國王ニ對シ間接受領者ハ直接受領者ニ對シ各其負擔
 セル義務ヲ増加セリ此等各種ノ封建義務中最モ名譽アルモノナリトサアウ。

ス「ト云フナイトサアヴニス」トハ武士ノ勤務ト云ヘル義ニシテ國王ハ從軍ノ義務
 ニ對スル俸祿トシテ直隸ノ臣下ニ與フルニ其領地ノ幾分ナリテ直隸ノ受領
 者ハ亦之ヲ其隸屬即チ王ノ陪臣タル者ニ分與スルノ法ヲ云フ僧正及ヒ其他ノ
 高僧等カ土地ヲ受領スルニモ此亦借地法ニ由レリ然リ而シテ國王カ其土地ヲ
 臣下ニ分與スルニ當リテハ必ス讓與ノ儀式ヲ行フヲ以テ常例トセリ此儀式ヲ
 稱シテ「リベリー、オフ、セイジョン」ト云フ又「ホメイジ」ト稱スル儀式ヲ行フコトナリ
 此式ニ於テハ受領者自ラ解劍脱帽若シク君前ニ跪拜シ已レノ雙手ヲ主君ノ雙
 手ノ間ニ挾ミ謹ミテ左ノ如キ誓言ヲ爲ササル可カラズ

臣ハ今日以後臣ノ生命、肢體並ニ現世ニ於ケル總テノ信仰ヲ犧牲トシテ閣下
 ノ忠僕タルコトヲ誓ヒ又閣下賜フ所ノ土地ニ對シ誠意忠信以テ閣下ニ奉仕
 シ篤ク高恩ノ萬一ニ酬ヒンコトヲ期ス

此時主君ハ受領者ノ頰面ニ接吻シ其誓言ヲ可納スルノ意ヲ表スルモノトス然
 レトモ若シ間接受領者ニシテ直接受領者ニ對シ誓言ヲ爲ストキハ必ス國王ニ
 對シテモ信實忠誠ヲ盡ス可シトノ語ヲ其誓言中ニ加ヘサル可カラズ而シテナ
 イトサアウニスノ法ニ依リテ土地ヲ受領セシ者ハ二十磅ノ歲入アル土地ニ付キ
 各軍裝セル武士一人宛チ出シ自費ヲ以テ四十日間從軍セシム可キ義務ヲ負擔
 ヒリ加之ナラス直接受領者ハ毎年三回ノ佳節ニ際シ王宮ニ伺候スルノ義務ヲ
 有シ間接受領者モ亦直接受領者ノ城中ニ登城參拜スルノ義務ヲ負ヒタリト云
 フ

右「ナイトサアウニス」即チ從軍ノ約束ヲ以テ土地ヲ受領スル制度ニ附屬セル義務
 ハ以上陳ヘタルモノノ外尙ホ重大ナル義務數種アリ之ヲ稱シテ「フエータル、イン
 シアダン」即チ封建ノ偶生物ト云フ蓋シ「ノルマン」家ノ諸王カ此等封建義務ノ負
 擔ヲ重クシ以テ貴族ヲ苦惱抑壓シタル結果ハ遂ニ貴族相合同一致シテ「クワン」王
 ニ迫リ強テ「マグナ、カルタ」ヲ承認セシムルニ至レリ今此等封建ノ附屬義務中其
 重大ナルモノヲ列舉スレハ左ノ如シ

第一「クワン」

封建借地受領者ハ其主君若シ敵ノ俘囚トナリタルトキ償金ヲ拂フテ之ヲ償ヒ
 又主君ノ長子冠シテ武士トナルトキ若クハ主君ノ長女結婚ノ禮ヲ舉クルトキ

若干ノ献金ヲ捧ケテ其吉禮ヲ補助スルカ如キ三種ノ献金ヲ稱シテ之ヲ「ユイド」ト云フ而シテ献金ノ額ハ固ヨリ相當ナラサル可カラス

第二「レリーフ」

借地受領者死去シ相續人其借地ヲ讓受フルニ當リテハ「レリーフ」ト稱スル賦金ヲ拂ハサル可カラス但シ相續ノ順序ハ男子ハ女子ニ先テ長子ハ幼子ニ先ツモ「ノトスノルマン」征服後屢「苛酷ナル」レリーフヲ徵集セント雖モ後マダ「グト、カルタ」之ヲ確定シテ「パロン」ノ領地ハ百磅ノ「レリーフ」ヲ拂フ可ク「ナイト」ト稱スルハ「百」シリング「ヲ拂フコト」ナレリ然レトモ直接受領者ハ別ニ「フライマリ、セイ」シ「ト稱スル一種ノ「レリーフ」ヲ課セラレタリ此ハ受領者丁年ニ達シタル相續人ヲ遺シテ死去セントキ其所領ヨリ生スル所ノ利益ヲ一介年間獲得ス可キ國王ノ權利ナク云フ

第三「ウワードシップ」

相續者未丁年ナルトキハ其丁年ニ達スルマテ主君之カ身體及領地ヲ後見監督シ其領地ヨリ生スル利益ヲ自ラ收穫スルコトヲ得之ヲ稱シテ「ウワードシップ」ト云

ヒ而シテ男子二十歳女子十六歳ニ達スルトキ主君ノ後見ヲ脱シテ其所領ノ返戻ヲ請求シ之ト同時ニ半介年間ノ利益ヲ上納セサル可カラス之ヲ稱シテ「ウワードシップ」ト云フ

第四「マリーリヂ」

主君若シ未丁年ノ女子ヲ後見スルトキハ女子十四歳ニ達スレハ其意ニ從ヒテ之ヲ婚姻セシムルノ權利ナ有セリ若シ女子ニシテ主君ノ命シタル婚姻ヲ拒否スルトキハ課金トシテ婚姻ノ市價即チ此女子ヲ娶ランニ欲スル者カ主君ニ對シ婚姻ノ代價トシテ拂フ可シト約シタル金額ヲ納メサル可カラス又女子ニシテ若シ主君ノ許可ヲ得スシテ婚姻スルトキハ以上ニ二倍スルノ課金ヲ拂ハサル可カラス而シテ此婚姻ヲ左右スルノ權ハ後遂ニ女子ノミナラス男子ノ場合ニモ及ボシ爲メニ國王及ヒ貴族ハ之ヲ以テ歳入ノ一大源泉ト爲セリ

第五「フインス、オフ、アリエチーレン」

是ハ直接受領者カ其領地ヲ他人ニ讓渡ストキニ當リ國王ノ許可ヲ得且讓渡ノ課金ヲ國王ニ納ムルコトヲ謂フ

受領者若シ相續人ナクシテ死スルトキハ主君其所領ヲ沒收ス之ヲ「エスチート」ト謂ヒ又受領者若シ反逆ヲ企ツルカ若クハ他ノ重罪ヲ犯シタルトキハ國王若クハ貴族其所領ヲ沒收ス之ヲ「フリーソチヤ」ト謂フ

上來叙述セシ「從軍受領法」ノ外尙ホ數箇ノ借地受領法アリ即チ

其一「ハ」グラント「サー」エンチ「ト」稱シ直接受領者必スシモ「E」ニ從軍ス可キ義務ヲ負ハス王ノ旗鎗ヲ捧持シ若クハ王ノ代戰者ト爲リ若クハ司飲官ヲ務ムル等或ル特別ノ勤務ヲ有スルモノナリ

其二「ハ」エチ「ト」サー「シ」エンチ「ト」稱スル受領法ニシテ「E」ハ地位貴カラサル臣下ニ命スルニ左ノ如キ卑賤ノ勤務ヲ以テシ之ニ報ユルニ土地ヲ以テシテ即チ森林官、佃獵官、鷹司及ヒ庖厨吏等ノ諸役ヲ命シタリ然レトモ其後ニ至リアハ毎年軍用ノ器具ヲ貢獻ス可キ義務ヲ有スル者ヲ稱スルニ至レリ蓋「メ」ト「ト」サー「シ」エンチ「ト」ハ次ニ陳述スル「ソ」リ「ソ」ケ「ト」借地法ノ一種類ニシテ唯其異ナル所ハ少シク品位良キ勤務タルニ過キス

其三「ハ」即チ「フ」リ「ソ」ケ「ト」借地法ニシテ一定ノ借地料ヲ納ムルカ若クハ毎年或ル確定セル時限主君ノ田地ヲ耕作ス可キ義務ニ基キ借地スルノ方法ヲ謂ヒ彼ノ「ソ」イト「サー」グ「ス」ア如ク從軍ノ義務ヲ負ハス故ニ此點ヨリ斷定スルトキ「ハ」フ「リ」ソ「ケ」ト「ソ」借地法ハ封建制度ニ必要ナル一元素ヲ缺クカ如シト雖モ從軍借地法ト等シク讓與ノ儀式ヲ要シ主君ニ服從ノ義務ヲ負擔セ又時トシテ「ハ」ホ「メ」イ「シ」ノ儀式ヲ行ハサル可カラサルノミナラス又種種ノ負擔ヲ有セリ唯從軍借地法ニ比スルトキハ榮譽ノ點ニ於テ劣ル所アリト雖モ負擔輕クシテ且利益多カリシナリ

其四「ハ」バイ「ケ」イ「シ」借地法ニシテ市府ニ於ケル「ソ」ケ「ト」借地法ノ一種類ナリ古代「ボ」ロ「ト」ノ土地ハ概テ此方法ニ據レルモノニシテ其士民タル者國王又ハ主君ニ定額ノ借地料ヲ納ヒ若クハ或ル勤務ニ勞役シテ以テ之ヲ受領セリ

其五「ハ」ガ「ベ」ル「カ」イン「ド」借地法ニシテ素トケント州ニノミ限リテ行ハレタル方法ナリ此州ノ人民ウ「リ」ヤムノ殊恩ニ浴セタルカ爲メ此借地法及ヒ其他ノ特權ヲ得メリシト云フ此借地法ハ專リ私有制度ニ類似シ受領者ハ遺言ヲ以テ之

ナ子孫ニ傳フルコトヲ得若シ遺言ナキトキハ平等均一ニ之ヲ其子孫中ニ分配スルコトヲ得ハシ又重罪ヲ犯スコト有リト雖モ沒收セラレルモノ愛ナク所有者ニシテ十五歳以上ナルトキハ隨意ニ之ヲ他ニ讓與スルコトヲ得ハシ以上二箇ノ借地法ハ共ニ「ソケーシ」ノ特別借地法ナリトス

其六ハ「フリーソケーシ」借地法ノ下ニ位スルモノニシテ之ト「ゲレチー」ト稱ス即チ自由民ト奴隸トナ同ハス農業ニ従事スル者ハ總テ其賃銀ノ代價トシテ土地ヲ借用スルノ法トリ而シテ其借地ノ期限ハ地方ニ依リ多少ノ差異トキヲ得ス又「ウレチーシ」借地法ニ純粹ノ「ゲレチー」及ヒ特權ヲ有スル「ゲレチー」ノ二種アリ純粹ノ「ウレチー」トハ直隸貴族ノ領地ヲ借用シ専ラ生命ニ從ヒテ日日勞役スルモノナルカ故ニ今夕ノ業ト終リタル後明朝如何ナク勞働ニ服ス可キヤ自ラ知ラサルモノナリ之ニ反シテ特權ヲ有スル「ゲレチー」ハ等シク王領ノ人民ニシテ卑賤ナル勞働ヲ爲ス可キ約束ヲ以テ土地ヲ借用スル方法ナリト雖モ其勞働ハ確定シタルモノトス又此方法ニ據リテ借地セル者ハ荷モ懈怠或ハ無能力ナルニ非スンハ王ト雖モ濫リニ之ヲ變更スルヲ得

今以上列挙シタル封建借地受領法ヲ圖表ニ爲セハ左ノ如シ

封建借地法

(1) ナイト、サーヴヒス、ノー、ド、イン、マンツ	1. エイド
(2) グランド、サーモンチー	2. レリーフ
(3) フリー、ソケーシ	3. ワールドレグ
(4) ウレチーシ	4. マーリジ
(1) 純粹	5. ファインス、メ、アリエチーシ
(2) 特權ヲ有スルモノ	6. エスチー、及ヒ、フリーソケーシ

以上ハ封建制度ノ概略ナリ是ヨリ歩ヲ進メテウイリヤム一世ノ時代ニ於ケル立
法、行法等爲政上ノ景況ヲ一言セン

六二

〔ウイテナ、ゲモト〕及ヒ〔キョーリヤレシス〕

ウイリヤムハ舊例ニ從ヒ毎年一定ノ場所ト時日トヲ期シテ大僧正、僧正、僧都、ア
ル〔セエン〕ナイト等ヲ召集シ國會〔狹隘ナル意味ニテ〕ヲ開キタリ其名稱ハウイリヤ
ム即位ノ後ニ至ルマテ〔サキソン〕時代ニ於ケルウイテナ、ゲモトナル名稱ヲ襲用シ
タル根跡有セリト雖モ其後漸ク封建制度發達スルニ及ビテ社會上並ニ政法上
ノ諸制度皆其影響ヲ蒙リ此ウイテナ、ゲモト〕即チ智者ノ集會モ亦一變シテ國王
カ封建貴族ヲ召集スル所ノ所謂キョーリヤレシス〕ナルモノト化スルニ至レリウ
リヤムハ國國一般ニ關係スル所ノ法律ヲ變更セルコト甚タ少ナキカ故ニ此點
ニ於テハ衆庶ノ憤恨噴患ヲ招キシコト鮮ナシト雖モ司法ノ官吏ハ殆ト皆外國
人ナリシカ爲メ大ニ物議ヲ惹起シタルコト有リシ此等ノ原因ヨリシテウイリヤ
ムハ即位後四年ヲ經テ全國悉ク鎮定セントキ令ヲ發シテ舊來ノサキソン人即
チ英人ト新來ノノルマン人トノ間ニ相互ノ親睦調和ヲ維持ス可キ旨ヲ命シ因

九十四

リテエドワード、コンクエロル王ノ有名ナル法律ヲ新ニ頒布シ且自ラ之ニ數條ヲ
附加シタリ是蓋五十二年前カニート王カ英人トアーン人トノ調和ヲ計ランカ
爲メエドガー王ノ法律ヲ新ニ發布シタルト其軌ヲ同シシ共ニ民心ヲ得ント
欲スル一手段ニ外ナラス而シテウイリヤムカ此法律ヲ發布シタル以來英人並ニ
ノルマン人共ニ之ヲ尊重遵奉シ後世マダカレタ出テ英國人民自由ノ基礎
大ニ確立スルニ至ルマテ之ヲ以テ自由ノ柱石ト爲シタリ

九十五

〔ウイリヤ、オフ、バートル〕

法律上英人トノルマン人トハ對等ノ地位ヲ有シ其間ニ上下ノ懸隔ナカリシト
雖モ其一身ニ關スル法律ヲ適用スルニ當リテハ多少ノ差異アリシヲ見ル即チ
ノルマン人ハ主トシテ〔ウイリヤ、オフ、バートル〕ト稱スル戰國裁判法ヲ以テ裁判
セラレント雖モ英人ハ通常所謂オーデヒール及ヒコムパーゲーシソノ方法ニ
由リテ裁判セラレタリ蓋ウイリヤムノ主義トスル所ハ各種族ノ人民各其固有ノ
習慣ニ從ヒテ裁判セシムルニ在リシナリ

〔ロー、オフ、イングリシリー〕

憲法史

六三

地方ノ英人ニシテノルマン官吏ノ概制ニ苦ム者往往其暴吏ヲ暗殺スルコト有
 リシヲ以テウリヤムハ此弊害ヲ防遏セント欲シ新ニ令ヲ發シテノルマン人暗
 殺セラルルトキハ其「バンドレド」全體ノ人民ハ連帶責任ニヨリテ巨額ノ罰金
 ニ科セララルコトト爲シ又有名ナル「イングリニ」ト稱スル法律ヲ布キテ暗
 殺サルル者アルトキハ其被害者最近ノ親戚四人ヨリ該被害者ハ英人ニシテ
 ノルマン人ニ非スト立證スルニ非スンバ一切之ヲノルマン人ト認定シ之ニ伴
 フ所ノ責任ヲ負ハシムルコトトセリ蓋此等ノ法規ハ英人トノルマン人トノ種
 別判明ナリシ間ニ於テハ其必要ヲ見シト雖モリ「トード」一世以後ヘンリー一世
 ノ時代ニ及ヒテ兩人種ノ間ニ雜婚行ハレ遂ニ其種別消滅スルニ至リシヲ以テ
 復タ以上ノ如キ法令ノ必要ナキニ至レリ

ウリヤムハ國中ノ平安ヲ維持スルコトニ注意シ塞村僻地ニ至ルマテ皆王化ニ
 潤ハサル者ナカリシハ實ニ當時人民ノ最大幸福ト云ハサル可カラズ王ハ自己
 以外ニハ何人ニモ掠奪ヲ許ササリシヲ以テ若シ此等ノ所爲アル者ハ其人ノ英
 人タルト又ノルマン人タルトヲ問ハス等シク之ヲ嚴刑ニ處シタリ又王ハエヒ

ルレド及ヒカニートノ二王カ會テ禁制セルカ如ク人身ヲ賣却シテ外國人ノ奴
 隸ト爲スノ惡弊ヲ嚴禁セリ又王ハ狩獵ヲ好ミタルヲ以テ「ハンブレイア州」於
 テ一萬七千「エイカー」ノ耕地ヲ變シテ新ニ森林ト爲シ同時ニ森林法ヲ設ケテ此
 酷ナル刑罰ヲ定メ若シ王ノ最愛セル麋鹿ヲ屠殺スル者ハ刑罰トシテ其眼珠ヲ
 抉抜セラル可ク猪兔ヲ殺ス者モ亦其刑罰ヲ免カルコト能ハサリシ

ウリヤム王ノ御宇中最モ緊要ナル一事件ハ政教ニ法廷ノ分離是ナリ蓋此時ニ
 至ルマテ僧正僧都ハ各「シイア」及ヒ「バンドレド」裁判所ニ出席シ行政官ト共ニ寺
 政上並ニ民政上ノ事件ヲ議決シタリト雖モウリヤムニ至リテ之ヲ改革シ總テ
 寺政上ノ訴訟ハ寺法ニ據リテ特別ナル裁判所ニ於テ判決セシメセリノ其他ノ
 行政官吏ヲシテ之ニ干與スルコトヲ禁セリ王此改革ヲ行フニ當リテヤ古來ノ
 慣例ニ從ヒ王權ヲ教權ノ上ニ樹テシテ企圖シ有名ナル法三章ヲ規定シテ
 王權ノ超越ヲ示セリ

第一 國王ノ許可ヲ經スシテ法王ヲ奉戴シ若クハ其膏翰ヲ英國内ニ於テ受
 領スルコトヲ得ス

第二 國王ノ承認ヲ經サル宗教會議ノ議決ハ其效力ナキモノトス

第三 國王ノ許可ナクシテ王ニ附隨セル貴族及ヒ官吏ナ破門シ若クハ教門上ノ懲罰ニ處スルコトヲ得ス

加之ナラス王ハ又私有地タリシ僧侶ノ領地ヲ變シテ悉ク從軍ノ義務ヲ負
據ス可キ借地ト爲シタルカ爲メ僧侶ハ悉ク其權力ヲ減殺セラルルニ至リ
終リニ臨ミ尙ホ一言ス可キハ當時ノ裁判所構成法是ナリ

前既ニ陳ヘタルカ如ク寺政裁判所ハ全ク民政裁判所ト分離シ民政裁判所ハ
日ノ如ク「シャイヤ」ハンドレド反ヒ「ボロ」即チ「タウン」ノ區劃ニ分割セ
レ別ニ時ノ王又ハ貴族ノ「ホーレル、ムート」ナルモノ一變シテ「コート、
パロン」ト稱セラルルニ至レリ而シテ「シャイヤ」法廷ニ於テハ「
シャイヤ」中ノ總地主「コート、パロン」ニ於テハ王又ハ貴族ノ有スル
采地「メノル」ノ借地人各以前ノ如ク裁判官タリ又「シャイヤ」及
ヒ「ハンドレド」法廷ニ於テハ「ノルマン」ノ所謂セリフ「ニシテ即チ
グイス、コムスト」稱スルモノ此カ裁判官ヲ務メサクシ
ン時代ノ法官コリハ遙ニ勝ル所ノ權力ヲ有セリ然リ而シテ當時英國中最高等ノ
裁判所ハ則チ「キーリアレ」ニスニシテ此

「キーリアレ」ニスハ實ニ至高ノ法廷タルノミナラス又一方ニ於テハ王ノ顧問會
議ト爲リ他ノ一方ニ於テハ立法府タル「ウイッチ、ゲモト」ノ資格ヲ有シタリ然ルニ
當時政務ノ多端ナルニ際シ王ハ屢故國ノ「ノルマンディー」ニ赴キ且自ラ英語ニ通シ
サルヲ以テ此等ノ不便ヲ補ハシカ爲メ新ニ「シ、スチン、アー」ト稱スル最も高貴ナ
官職ヲ設ケ王ニ代ハリテ萬機ヲ統轄セシメタリ又王ハ「エドワード、コンフ、ソ
ル」ノ時始メテ設置セラレ爾來王權ヲ管理セシ「チン、セロル」ノ職ヲ以テ「シ、スチ
ン、アー」ノ次位ニ班センメ以テ常ニ王ニ附屬セル書記官等ヲ管轄セシメタリ

第三章 ノルマン、アー、ピンの王統初代ヲ叙ス

ウリヤム、ルーフ、ス、王	一〇八〇年
ヘンリー一世	一〇六七年
スチーヴン王	一一〇五年
ヘンリー二世	一一五四年
リチード一世	一一八九年

ウイリヤム、ルーフス王ノ時代ニ於テ發生セル憲法上緊要ナル事件ハ第一ナラ
 フ、アラムバードナル者封建借地法ニ附著セル彼ノインゲンツ即チ封建義務
 ナ巧ニ一定ノ理論ト爲シ之ヲ實際ニ應用シテ僧俗ト間ハス嚴密ニ徵收シ以テ
 財政ノ一手段ト爲セシコト第二國王ト貴族ト常ニ相札リ紛争絶ユル高ナカリ
 シヲ以テ國王ハ遂ニ舊英人ノ助ヲ得テ以テ貴族ニ抵抗スルノ必要ヲ生シ爲メ
 ニノルマン貴族ノ亡滅ヲ見ルニ至リシコト是ナリ
 右二件ノ顛末ヲ略記センニ專制君主ウイリヤム常ニ飲樂ニ耽リ毫モ國政ニ留意
 セス師父大僧正ランフランク逝去スルノ後政治ノ事一ニジョスチンアーニ放任
 シ復タ省ル所ナシ然ルニ當時ジョスチンアータリシナラフ、フランバードナル
 者ハ奸黠婪汚ノ一僧侶ナリシヲ以テ巧ニ阿諛ヲ弄シテ上ノ意ヲ迎ヘ遂ニ國家
 ノ財政竝ニ司法ノ大權ヲ己ノ掌中ニ握リ王ノ奢侈ヲ助ケンカ爲メ封建上竝
 ニ裁判上ノ王權ヲ妄用シ課スルニ苛稅ヲ以テシテ貴族竝ニ平民ヲ苦メタリ是
 ニ於テ彼レリーフ、ワードン、ブ、及ヒ、マリーシ等各種ノ封建義務ハ元來ウイリヤム
 一世ノ時正當ナル封建主義ニ基キ規定シタルモノニシテ其賦課ノ額モ亦相當

ナリシニ拘ハラズ今ヤ其性質一變シテ法律ノ假面ヲ裝ヒテ直接貴族ヲ壓制ス
 ルノ一方便ト爲レリ又僧侶ノ受領者モ同様ナル苛酷ノ負擔ヲ免カサルコト能
 ハサルノミナラス僧侶等ノ死去スルトキハ故ヲニ其後任者ノ選定ヲ遷延シ以
 テ其間ニ於ケル收入ヲ國庫ニ沒收シ又後任ヲ選定スルトキト雖モ從軍受領者
 ノ納ム可キレリーフト同額ヲ獻納セシメント云フ

次ニ王ト貴族トノ間ニ起リタル紛争ヲ尋ズルニ先王ウイリヤム一世ノ時ニ當リ
 王トアングリヤ侯ラルフ、ゲドル及ヒヘリフ、エド、ロ、シ、オ、フ、ブレト等トノ
 間ニ生シタル軋轢ハ今王ルーフスノ時代ニ及フモ尙ホ未ダ止マズ遂ニ強硬ナ
 ル貴族相結合シテ王ニ抗シ或ハノルマン王家ヲ顛覆セント謀ル者アルニ至レ
 リ然レトモ事終ニ成ラズシテ貴族ノ勢力漸ク衰滅ニ歸シノルマン貴族始ト其
 跡ヲ絶ツニ至レリ

王ハ又自己ノ位地ヲ保持シシカ爲メ托ケンサキソン人民ノ輿望ヲ得シコトヲ
 勉メ之ヲシテ己レヲ助ケテ能ク貴族ニ抵抗セシメタリ蓋王ハ民心ヲ取攬セン
 カ爲メ第一即位ノ當時第二ノルマン貴族、反逆ノ時機及ヒ第三臨終ノ時ニ於テ

憲法上ノ法令ヲ發シ約スルニ善良ノ法令ヲ布クコト、租税ノ輕減スルコト及ヒ
佃獵ヲ自由ニ放任スルコトヲ以テシタリ然レトモ皆有名無實宅モ實踐スル所
ナカリシ

七〇

次ニヘンリー一世ノ時世ニ於ケル憲法上緊要ノ事件ヲ指シスレハ有名ナル者
一ター、オフリバーチー即チ自由ノ憲章ヲ發布シタルコト是ナリ抑自由ノ憲章
ハ王踐祚ノ時國民ニ對シテ爲セル誓約ノ主意ヲ擴張シテ先王ノ世僧侶及ヒ貴
族ニ課シタル不法ノ苛税ヲ全廢シ以テ人民ノ苦心ヲ救メントスル一政策ニ
テ其要旨ヲ舉クレハ第一僧侶ニ約スルニ大僧正、僧正、僧都等ノ死云レテ無住ト
爲リタル時其寺院若クハ其借地人ノ土地ヲ賣却シ貸與シ若クハ利益ヲ沒收ス
ルカ如キ事ヲ爲ササル可キコトヲ以テシタリ第二貴族ニ對シテハ從來封建義
務ト稱シ賦課シタル不法ノ諸賦金ヲ廢シテ約シ又借地相續者ハ先王ノ
世ニ於ケルカ如ク相續ノ際更ニ其土地ヲ購求スルコトヲ要ヒス唯相當ノレリ
一フ即チ相續金ヲ納ムルヲ以テ足レリト爲シ若シ又借地受領者ノ女若クハ其
親戚ノ者結婚ヲ爲ストキハ從來ノ如ク是ノ許可ヲ要スト雖モ別ニ賦金ヲ納ム

百二

百三

ハチ要セサルノミナラス其女婿タル者ニシテ王ノ仇敵ニ非サル以上ハ其婚
婚ヲ許否スルヲ得ス又其父ノ領地ヲ相續セシ女子ヲ婚姻セシメントレハ
必ス先ツ貴族ニ諮詢スルコトヲ要ス又寡婦ハ其意ニ反スル結婚ヲ強ヒラハ
コト無シ又寡婦ニシテ其子ナキ者ハ自ラ其夫ノ遺産ヲ所有スルコトヲ得テ子
孫ノ身體並ニ土地ヲ後見監督スルノ權ヲ有ス又從軍借地法ニ依リテ土地ヲ受
領スル者ハ國王及ヒ國家ヲ護衛スルカ爲メ要スル準備トシテキルガ及ヒオハ
ラフ如キ負擔ヲ課シラハ可ク其他借地受領者ハ其財產ヲ自由ニ遺傳スルコ
トヲ得ヘク罰金ハ先王ノ世ニ於ケルカ如ク土ノ拍斷ニ委スルコト無ク古來ノ
慣典例ニ從ヒ罪科ノ性質ヲ酌量シテ之ヲ課セルコトト爲セル等是ナリ第三十
ハ又國民全體ニ約束スルニ彼ノ有名ナルエドワード、コンフツル王ノ法律ヲ復
回履行センコトヲ以テシタリ

以上三箇條ハ自由ノ憲章ニ規定セル大意ニシテ該憲章中人民ノ不平等憤懣ヲ格
キニ簡條ハ王ハ先王ト等シク森林ヲ占有シ單ニ自家佃獵ノ快樂ニ供セルコト
是ナリ之ヲ要スルニヘンリー一世ノ御宇ニ於テ制定セル所ノ法律ハ唯是自由

ノ憲章一典ノミナリキ而シテ此憲章ハ先王カ徵収セシ不法ナル苛税ノ性質ヲ
 舉示シ因リテ之ヲ廢止センコトヲ約シタルモノニシテハンリーノ如キ專制君
 主ト雖モ憲法上英國人民ハ古來ノ自由ヲ享受ス可キ權利ヲ有スルコト並ニ其
 王權ハ元來有限ナル所以ヲ公然承認シタルモノト云フ可キナリ然レトモ王
 即位ノ後屢該憲章ヲ發布シテ之ヲ遵奉スルノ意ヲ發表シタルニ拘ハラヌ其後
 實權ヲ掌握スルニ及ヒテハ前約ヲ棄テテ毫モ省ミル所ナカリシカ爲メ該憲章
 モ終ニ空文徒法ニ屬セシナリ然レトモ其後スチーヴン及ヒハンリー二世ノ世
 ニ及ヒテ再ヒ該憲章ヲ發布シ又シ、ン王ノ時ニ及ヒテ大僧正ラングトン貴族ト
 共ニ之ヲ基礎トシテ英國國民カ固有セル極制並ニ自由ヲ恢復センコトヲ企テ
 遂ニ彼ノ有名ナル「マグナ・カルタ」即チ大憲章ヲ産出シタリ
 降リテスチーヴン王ニ至リテモ亦其即位ノ當初ニ於テ一「憲章」ヲ發布シテ貴族
 及ヒ人民ニ約スルニ叔父「ヘンリー」ノ承認シタル各種ノ良法並ニ自由ヲ准許シ
 且「エドワード」コンフソル王ノ世ニ頒布シタル善良ナル法律習慣ヲ回復承認シ
 タリ其後オクスフルドニ於テ多數ノ英人並ニノルマン貴族及ヒ僧侶ヲ召集シ

テ會議ヲ開キタル時第二ノ憲章ヲ發布シテ古來ノ憲法ニ違ハス可キ「ト」ノ約
 諾シタリ此憲章ハ先キニ制定發布シタルモノニ比スレハ其體裁一層完備シテ
 ト人民間ニ嚴格ナル誓約ヲ規定シ三十七人ヨリ少ナカラサル貴族高僧等此カ
 保證人ト爲レリ今該憲章中ノ箇條ヲ見ルニ第一ニ王ハ僧侶ノ輔佐ニ依リテ即
 位シタルヲ以テ憲章ノ過半ハ僧侶ノ利益ヲ保護シタルモノニ非サルハ莫ク即
 チ先ツ僧官ノ買賣ヲ禁シ次ニ僧正カ其部下ノ僧侶及ヒ所領ヲ支配管理スルノ
 權ヲ認許シ僧侶ノ特權及ヒ習慣ハ何人ト雖モ之ヲ侵スコトヲ得ス又ウイリヤム
 一世ノ崩セシ時及ヒ其後信徒ノ獻納ニ係ル領地ハ總テ之ヲ保持スルコトヲ得
 ヘキコト等其他數件ヲ承認セリ第二ニ國民全般ニ對シ總テ政治ハ公平ト小和
 トヲ旨トス可キコトヲ約シ從來有司等ノ濫リニ賦課シタル不法ノ租税ハ總テ
 之ヲ廢シ古來ノ善法好習慣ニ準據シテ裁判ス可キコト等ナリ
 スチーヴン王ハ驍勇ナリシト雖モ經世濟民ノ才略ニ乏シク其在位ノ間國情紛
 紛亂レテ麻ノ如ク殆ト無政府ノ慘狀ヲ顯出スルニ至リタルヲ以テ該憲章ノ如
 キモ單ニ一箇ノ約束タルニ止マリテ遂ニ之ヲ實行スル能ハサリシハ遺憾ナリ

ト雖モ亦英人古來ノ自由ヲ證明スル連續トシテ他日大憲章ヲ作意スルノ基礎ト爲レリ而シテ余カ爰ニ之ヲ叙述スル所以モ亦英國憲法ハ如何ナル沿革ヲ經歴シタルカ如何ナル困難障礙ニ遭遇セシカヲ示サント欲スルノ微意ニ外ナリサルナリ

次ニアンジピン即チ「ブランデンブルク」ト王統ノ始祖ヘンリー二世ヲ見ルニ内亂ノ後ヲ受ケ國民皆大平ヲ渴望スルノ時即位セシテ以テ其タキ福ナリシカ如ク然レトモ王モ亦一憲章ヲ發布シテ祖父ヘンリー一世ノ承認セタル自由ノ憲章中ニ規定セル箇條ヲ遵奉ス可キコトヲ約シタリ然リ而シテ王ノ時代ニ於テ發生シタル憲法上二箇ノ緊要ナル結果ヲ舉クレハ第一ハ王權新ニ組織セラレ遂ニ發達シテ封建及ヒ國家ト云ヘルニ性質ヲ具備スル君主政治ト爲リタルコト第二ハ俗權、教權ヲ壓倒シ之ヲシテ法律ノ下ニ立タシメタルコト是ナリ
王ハ此二大政策ヲ實行スルニ當リ封建貴族及ヒ僧侶ナル二大強敵ニ遭遇セシト雖モ終ニ貴族ト争ヒテ之ヲ屈服シ僧侶モ亦王權ノ下ニ躊躇スルニ至レリ王カ畢生ノ志願ハ王權擴張、中央集權ニ在リタリト雖モ先王ト異ナリテ能ク憲

法上ノ大主義ヲ遵奉シ敢テ專制壓抑ノ政ヲ爲サス緊要、重大ノ事件アレハ必ス之ヲ其大會議ニ諮詢シタル後ニ非サレハ之ヲ施行スルコト無ク以テ國民代議ノ體面ヲ保持シタリ

又王ノ政治ニ於テ行ヒタル行政、司法上ノ改良掛ナカラスト雖モ就中其重要ナルモノヲ求ムレハ「キーリヤ」レシス及ヒ「エキヌチエ」カーノ組織ヲ改良シテ其裁判權、竝ニ財政權ヲ擴張セシコト又ヘンリー一世ノ時始メテ設置セラレタル彼ノ巡廻裁判ノ制度ヲ回復シテ其裁判官ヲ増加シ以テ德澤ヲ邊隅ノ地ニ普及セシメタルコト及ヒ「グラント」アサイズト稱スル陪審制度ヲ以テ審判スルノ方法ヲ設ケ從來ノ陋習タル駭聞裁判及ヒ「コムバー」ゲイレン」即チ證明法ヲ廢シタルコト等是ナリ

王ノ治世中尙ホ憲法上緊要ナル一事件アリ即チ「クラレンドン」ノ憲法發布是ナリ所謂「クラレンドン」ノ憲法トハ總計十六箇條ノ條文ニ分レ其體裁ハ大僧正、僧正「アール」バロン」等僧俗高貴ノ面前ニ於テヘンリー一世ノ時規定シタル政府ト教會トノ交渉ニ關スル習慣ヲ記錄シテ之ヲ認認シタルモノニシテ其目的ハ

王ノ裁判官及ヒ貴族ト僧侶トノ間ニ右習慣ノ性質ニ關シテ發生セル紛争ヲ調和センカ爲メニシテ大僧正、僧正ハ此憲法中ノ規定ヲ遵守ス可シトノ約束ヲ爲セリ今右憲法中緊要ナル商條ヲ列舉スレハ左ノ如シ

第一 總テ犯罪ノ告訴ヲ受ケタル僧侶ハ王ノ裁判官ノ前ニ召喚シ俗政若クハ寺政裁判所何レカ之ヲ審判ス可キカヲ定ム可シ若シ寺政裁判所之ヲ審判ス可キコトトナレハ王ノ裁判官ハ一官吏ニ命シテ其裁判ニ立會ヒ檢察セシメ其犯罪ノ證據判然タリシトキハ教會之ヲ保護スルヲ得ヌ又王ノ裁判所所屬ノ事件ハ總テ其裁判所内ニ於テ決了スルヲ得ハシ此ノ如クニシテウリヤム一世ノ定メタル俗政及ヒ寺政裁判所ノ區別ヲ保存シ王ノ裁判所先ツ被告ハ何レノ法廷ニ於テ審判ス可キモノナルキハ則チ該裁判所ニ於テ其罪ノメ若シ寺政裁判所ニ移ス可キモノナルトキハ則チ該裁判所ニ於テ其罪ノ有無ヲ判定シ若シ又有罪ナルコトヲ發見スルトキハ王ノ裁判所之カ刑ノ適用ヲ爲シ以テ宣告スルモノトス然レトモ僧官ノ任命及ヒ負債ニ關スル訴訟ハ總テ王ノ裁判所ニ於テ之ヲ受理審判ス可ク又土地ノ所有權ニ關ス

ル僧俗間ノ訴訟ハ裁判所長十二人ノ證人ト共ニ僧俗何レノ法廷ニ移ス可キカヲ判定スル等ナリ

第二 國王ノ許可ナクシテ直隸受領者若クハ宮内官吏ヲ破門シ及ヒ禁令スルコトヲ得ヌ又王領ノ借地人嫌疑アリテ僧正ノ召喚ヲ受ケ之ニ應セサル者ハ宗教禁令ノ罰ヲ科スルコトヲ得ルモ其地方長官ノ交渉ヲ請フ後ニ非サレハ之ヲ破門スルコトヲ得ヌ

第三 國家ノ創立ニ係ル大僧正、僧正等ノ寺院ニシテ無住職ト爲リタルトキハ其收入及ヒ保護權ハ王ノ手ニ歸ス可シ又新住職ヲ選舉スルニハ王ノ召喚ニ依リテ衆僧王ノ禮拜堂ニ集會シテ選舉ヲ行ヒ當選者ハ王ノ許可ヲ得ルヲ要シ就職前ニ王ニ對シテ服從ノ誓約ヲ爲スヲ要シ又王ノ許可ナクシテ外國ニ赴クヲ得サル等其他數件ヲ規定セリ

第四 控訴セント欲スル者ハ先ツ僧都ニ訴ヘ僧都ヨリ僧正、僧正ヨリ大僧正ニ訴フヘシ若シ大僧正ノ判決ニ服セサルトキハ最後ノ法廷トシテ國王ニ訴フヲ得ヘシ然レトモ寺政上ノ裁判所ハ大僧正ヲ以テ最後ノ法廷ト爲ス

可キカ故ニ王ノ認可ナクシテ更ニ法王ニ上告スルコトヲ得ス

第五「ヴレイン」ノ子孫ハ出生地ノ封建領主認許スルニ非スルハ僧侶ト爲ルヲ得ス(此箇條ハ當時貧賤ナル「ヴレイン」ノ子弟タル者ニ縦合絶倫ノ才能アルモ立身興家ノ道ハ唯宗教ノ門ヲ除クノ外他ニ一モ有ラザリシヲ以テ「ヴレイン」ノ大聖アル者ハ皆競フテ教門ニ入ルノ慣習行ハレタルカ故ニ封建受領者ノ「ヴレイン」使役權ヲ保護センカ爲メ規定シタルモノナリト雖モ其結果タルヤ大ニ「ヴレイン」ノ階級ヲシテ苦辛セシムルニ至レリ

次ニリチード一世ハ在位十年ノ間僅カニ數ヶ月間英國ニ在住セシノミニシテ其他ハ常ニ外國ニ在テ十字軍及ヒ佛國トノ戰爭ニ從事シタリ蓋王ハ本ト外國ニ生レ外國ニ成長シタルモノナルカ故ニ從ヒテ其感情外國ニ厚クシテ英國ニ疎ク殆ト英國ヲ以テ其生國ノ屬隸タルカ如ク看做セリト雖モ父ヘンリー二世カ行政制度ヲ改良シ鞏固ナル君主政治ヲ建立シタル餘ヲ受ケタルヲ以テ能ク之カ王タルヲ得タリ又王ハ其軍備ニ供センカ爲メ夥多ノ租稅ヲ課セシノミナラス官位ヲ競賣シ苛酷ナル封建義務ヲ賦課スル等專制ノ處置絶ヘザリシト雖

モ人民ハ之ニ抵抗セシコト無ク非常ノ忍耐ヲ示セリ唯僧侶ノ一階級ハ王ノ要求ヲ抵抗シ憲法上ノ要求ヲ爲セシト雖モ遂ニ成功セザリシ又王ハ苛酷ノ租稅ヲ賦課シタルニ拘ハラヌ其方法ハ常ニ法律ニ依レル體面ヲ裝ヒ以テ專制ノ實ヲ蔽ヒタルヲ以テ人民固有ノ自由ハ減損セラレタルコト無ク却テ或ル點ニ於テハ自由ヲ發達セシメタルノ跡アリ又アングロ、サクソン人トノルマン人トノ區別先王ノ時代ニ於テ既ニ大ニ混和シタリシト雖モリチード一世及ヒテ益々溶解混和シ終ニ次王ジョンノ時ニ及ヒテ貴族ト平民相結合シテ王ニ對シ英國人民共同ノ自由ヲ要求スルニ至レリ

第四章 「マグナ、カルタ」即チ大憲章

余ハ今ヤ歩武ヲ進メテ有名ナル「マグナ、カルタ」ニ就キ講述スルノ域ニ達セリ「マグナ、カルタ」ハ英國人民カ一國民ニ混化シタル後始メテ發布セラレタル大法典ニシテ實ニ舊時代ノ終結點新時代ノ發足點トモ云フ可キモノナリハラム氏ハ之ヲ目シテ英國人民自由ノ柱石ナリト云ヒ又「ザム」公ハ此大憲章ニ加フル

ニ千六百二十八年チャールズ一世ノ時發布セル「ミチン」オフ「フ」イト」即チ權宜法
 願及ヒ千六百八十八年「オーレンジ」公「ウ」リヤム」英王ノ位ニ即キタル時ニ布セル
 「ビル」ナフ「ライト」即チ權利法典ノ二憲章ヲ以テシ此三憲章ヲ名ツケテ英國憲
 法ノ聖書ナリトセリ而シテ此三大憲章ハ其十三世紀ニ出テタルモノト其十七
 世紀ニ出テタルモノトナ問ハス共ニ皆英國人民古來ノ自由ヲ回復保守センリ
 爲メニシテ毫モ新主義新事物ヲ輸入セントシタルカ爲メニ非ス是即チ英國憲
 法ノ特質ナリトス思フニ英國憲法獨古ノ美譽ヲシト爲サス然レモ其保守
 ト改進トノ二精神能ク相調和シテ世態ノ發達進歩ニ適應協合スル所以ノモノ
 亦其一大特點タラサルヲ得ス

「バル」グ「レー」ヴ」曾テ云ヘルコト有リ曰ク英國成文ノ法律ヲ見ルニ其大部分ハ皆
 古來既存ノ習慣法若クハ成文律ヲ修正増補シテ宣布シタルモノニ非サルハ實
 ク一時代ノ制度ハ必ス其基礎ヲ前時代ニ取リ新舊相聯繫シテ以テ憲法ノ系流
 未タ曾テ斷絶スルコト無シト蓋眞ナリ故ニ今「マ」グ「ナ」カ「ル」タ」曾以テ英憲法ノ發
 クハ製作サレタルモノト思フ可カラス夫レ「マ」グ「ナ」カ「ル」タ」曾ハ英國根本ノ法律ト

網羅スルモ是レ亦古來ノ習慣先例ヲ基トシテ修正増補ヲ加ヘタルニ過キスレ
 テ其起草ノ根本トナリタル先例古典ハ主トシテ「ヘン」リー」一世ノ憲章及ヒ「エ」ド
 「ワ」ード」コン「フ」エ」ツ」ソ」ル」王ノ世ニ行レタル法典ナリトス蓋シ「エ」ド
 「ワ」ード」王ノ法
 律ハ「ウ」イ」リ」ヤム」一世ニ至テ之ヲ回復再施シ次テ「ヘン」リー」一世其憲章ニ於テ之
 ヲ承諾シ其後千二百十三年大僧正「ス」チ」ー」グ」ラン」グ」ト」ン」ノ」貴」族」ト」共」ニ」マ」グ」ナ」
 「カ」ル」タ」ノ」要」求」ヲ」爲」ス」ニ」當」テ」ヤ」亦」其」基」礎」ヲ」ヘ」ン」リ」ー」一世ノ憲章ニ取レリ由是觀
 之「カ」グ」ナ」カ」ル」タ」ハ」エ」ド」ワ」ード」コン」フ」エ」ツ」ソ」ル」王ノ古典ヲ傳承シタルモノニ外
 ナキナリ

然リ而シテ尙ホ「マ」グ」ナ」カ」ル」タ」ニ」關」シ」注」意」ス」ハ」キ」貴」族」ト」ル」一」點」ハ」此」大」憲」章」タ」ル
 ヤ貴族ノ引率ニヨリ英國自由民全體ノ運動セル結果ニシテ或ル小數一局部ノ
 徒其私利私益ヲ企圖センカ爲メ要求セシモノニアラサル事是ナリ當時率先シ
 シテ運動シタル貴族ニ於テ其私利私益ヲ營マンカ爲メ國王ニ強請シタルモノ
 ニアラサルハ該憲章ニ規定セル條文中少クモ其三分ノ一ハ人民全體ノ利害ニ
 關スル事件ヲ確定セルノミナラス其第六十條ノ如キハ大憲章ヲシヨン王ニ捧

呈スル前ニ於テ貴族ハ總テ國王直隸ノ受領者ニ讓與スル所ノ權利自由ハ同シク之ヲ間接受領者即チ陪臣ニモ讓與スヘシト規定セルヲ見ルモ亦其然ル所以ヲ證スルニ餘リアリト云フヘク亦併セテ當時貴族カ公共心ニ富ミ平民ト利害休戚ヲ一ニシタル高尚ノ美ヲ見ルニ足ルヘキナリ

其他「マグナ、カルタ」ノ特質トモ云フヘキハ貴族等ノ「ジョン王」ニ對スル要求其々穩當著實ニシテ毫モ保守ノ精神ヲ失ハサルノ一事是ナリ抑モ「マグナ、カルタ」ハ實際「ジョン王」ト英國人民トノ間ニ起リタル葛藤ヲ結了セル和親ノ條約ニ外ナラスト雖モ其條文ニ於テハ人民古來ノ權利自由ハ總テ之ヲ「ジョン王」ヨリ讓受ケタルモノノ如ク記載セリ故ニ其箇條中毫モ理論ニ渡ルモノナク又革命的ノ語辭ヲ交ルコトナシ唯々極メテ平易ナル文字ヲ以テ君民ノ權利義務ヲ證明シ封建借地人ノ關係ヲ規定シタルノミ

爰ニ「マグナ、カルタ」ノ條文ヲ示スニ先テ「ジョン王」ヲシテ此大憲章ヲ證認セシムルニ至リタル原因一ニシテ足ラス

ト雖モ其重要ナルモノヲ擧クレハノルマンデー領佛人ノ手ニ存ハレ遂ニ英國ヨリ分離セル事是ナリ蓋シノルマンデー英國ト分離シテ以來英國ノ貴族等ハ其心ヲ専ラ内政ニ注キ其人民ト利害感情ヲ一ニスルカ故ニ遂ニ相結託シテ國王ノ壓制ニ抵抗スルニ至リタルヲ以テナリ而シテ其ノルマンデーノ革命ノ一ツリタル原因ハ職トシテ當時封建制度ノ衰頹セルニ由ルモノトナリ故ニ「ジョン王」ハ其一旦失ヒタルノルマンデーノ恢復セント欲シ其貴族ノ從軍ヲ要求シタルトモ貴族ハ國王ノ外征ニ從フヘキ義務ナシトテ遂ニ之ヲ背セサリキ如斯ク封建制度ノ衰頹ハ封建貴族トシテ「ジョン王」ニ從軍スルコトヲ拒マンメタルモ又一方ヨリ見ルトキハ「ジョン王」ノ性質暴戾無道ニシテ人民ノ嫌惡ヲ招キタルニ由ルモノ亦渺トナサス思フニ先王中ヘンリ一世リ「チャード」一世ノ如キハ憲ク國憲ヲ遵守シテ敢テ蔑法ノ處置ヲ爲ササリント雖モ「ジョン王」ニ至テハ之ノ異リ最惡ノ暴君ニシテ法律ノ句キハ其天然法タルト人爲法タルトノ間ハス億テ之ヲ蔑視シ恣ニ苛稅ヲ收斂シ毫モ法規ノ如何ヲ顧慮セズ又其品行ノ殘忍暴戾ナルハ恰モ羅馬ノ虐君「ネロ」ニ彷彿スリ此ヲ以テ僧侶貴族及平民等ハ相連シ

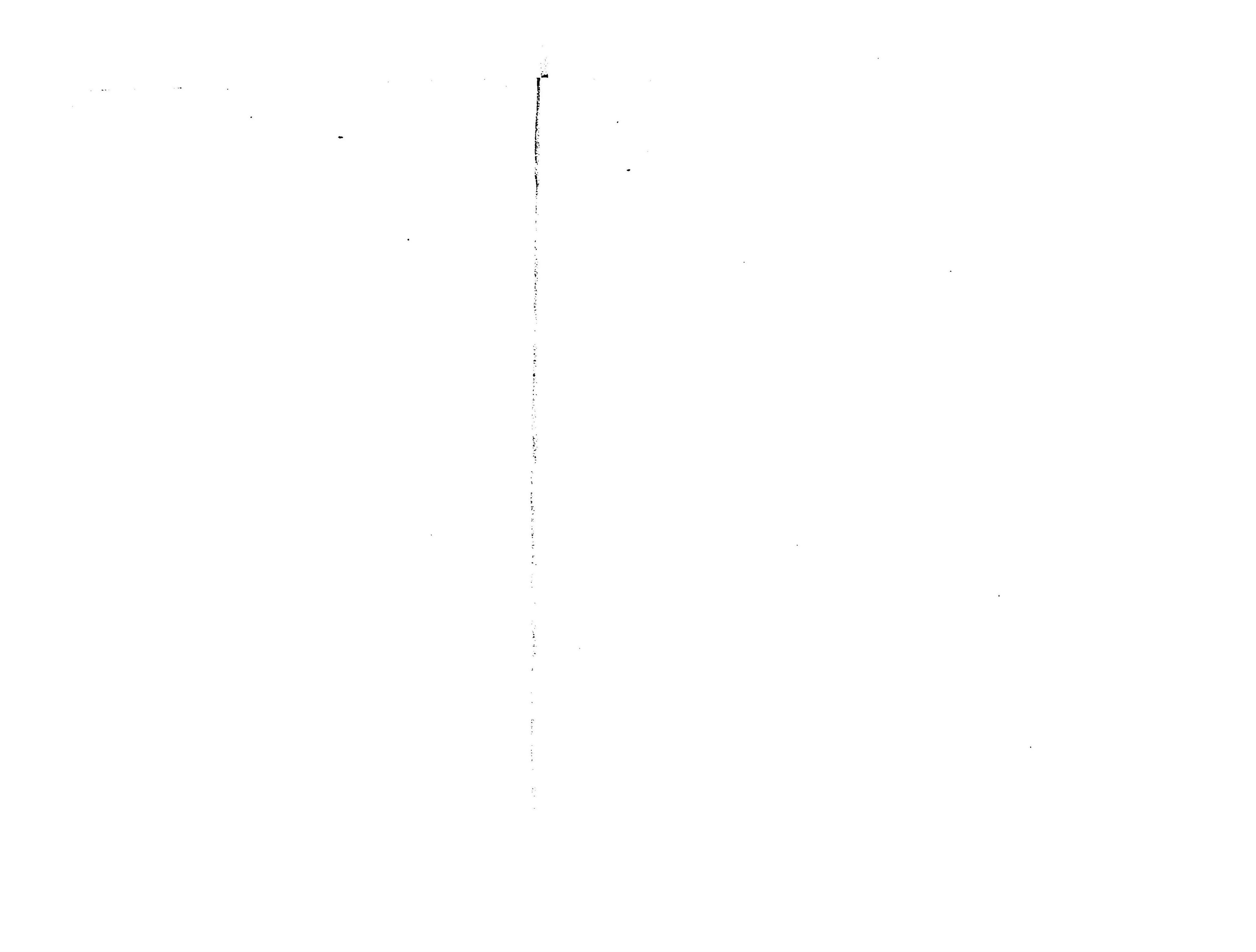
同盟シテ之ニ抵抗シ以テ其天賦ノ權利自由ヲ保護スルノ已ムヲ得サルニ至レリ故ニ英國臣民ノ此運動タルヤ全ク已ムヲ得サルノ處置ニシテ敢テ始メヨリ遠謀熟慮立憲政治ヲ創製セントスルノ意思アリシニアラサルナリ然リ而シテジョン王カ失政ノ次第ヲ見ルニ先ツ第一ニ羅馬法王トノ尊權ヨリ給マレリ蓋シ英國高僧選舉ノ權ハノルマン征服ノ前ニ在テハハッセルトナクモツト之ヲ掌握シ其以後ニ及ンテハ英王キユリヤレシスノ手ヲ經テ流シセリ而シテ當時僧侶ノ勢力強大ナリシカ故ニ王ハ其選舉ノ權ヲ政府ノ手ニ操リ以テ富ニ之ヲ抑制セントノ目的ヲ抱ケリ然ルニ王不徳ニシテ政ヲ失ヒタマハカ爲メ人心離反シ之ニ加ルニ當時ノ法皇インノローセント三世希世ノ英王ト以テ教權ヲ擴張シ全歐ヲ左右セント欲シ熱心ニ計策シタリ偶英國カターベリーノ僧正ウオルター歿シ其ノ後任ヲ撰定スルニ當リカンターベリーノ僧侶ハ法皇ノ特シテ其自由選舉ノ權ヲ回復セント欲シジョン王ニ圖ラシメテ其僧長ノ擧ケテ大僧正トナセリ此ニ於テジョン王モ亦別ニ僧正ジョンダグレイヲ擧メシテ大僧正トナシ以テ僧侶ニ頤順シタリ勢此ニ迫リタルヲ以テ遂ニ羅馬法皇イ

ンノセントノ裁定ヲ仰クニ至レリ然ルニ法皇ハ雙方ノ選舉ヲ以テ共ニ無効トナシ別ニスチーヴングトント稱スル博學高德ノ英人ヲ選ンテ大僧正ノ職ニ就シメタリジョン王此處置ニ服セス敢テラングトンノ大僧正タルヲ肯セザリシヲ以テ法皇ハ即チインダーデヒクトト稱スル宗教禁令ヲ發シテ英國人民ノ冠婚葬祭等總テ宗教ノ生活ヲ爲スヲ禁止シタリ法皇カ無辜ノ英人ニ此禁令ヲ蒙ラシメタルハ此ヲシテ困難窮苦ノ餘其國王ニ迫リテ法皇ノ處置一服センメント欲スルノ意ナリシト雖モジョン王ハ毫モ之ニ屈撓スル色ナカリシヲ以テ法皇ハ終ニ千二百九年エキスコムニユニケーシジョン即チ宗教破門ノ嚴令ヲ發シ續テ千二百十二年ジョン王ヲ廢黜シテ王位ヲ佛王フネリツツニ傳フ可キコトヲ命シタリ思フニ法皇カ雙方ノ選舉ヲ斥ケテ別ニラングトンヲ選定シタルハ英國並ニ英國人民ノ權利及カンターベリー僧侶ノ特權ヲ破リタルノ所爲ナリト雖モラングトン其人ハ幸ニ高德ノ君子ニシテ愛國ノ情厚ク法皇ノ意ヲ迎ヘテ英國ニ禍害ヲ及ホスカ如キ事ナカリシハ不幸中ノ幸ニシテ又法皇カ後ニジョンヲ廢シテ王位ヲ佛王ニ傳フルノ命ヲ下シタルハ其タ潜越不法ノ處置ナ

リト雖モ此カ爲メ大害ナ及ホスコト無カリシモ亦英國ノ爲メ祝セサルト得ス
 然リ而シテ洗劫ナルシコン王モ今ヤ一方ニ於テハ佛王フキリツア將ニ法皇ノ
 意ヲ受ケテ英國ニ侵來セントスルノ恐レアリ又他ノ一方ニ於テハ英人ニ對ス
 ル德望全ク墮落シ一人トシテ王ト死生ヲ共ニセントスル者ナキニガリタリ
 以テ身體維レ谷リ終ニ已ムヲ得ス從來ノ倨傲尊大ノ位地ヲ拋棄シ辭ノ卑シ
 ナ垂レテ法皇ノ命ニ服從セサルヲ得サルニ至レリ此ニ於テ王ハフングトント
 認メテ大僧正トトセシノミナラス從來僧侶ヨリ絞リ取リタル課金ト免除シ遂
 ニ英國ヲ擧ケテ法皇ニ呈シ爾來只法皇ノ受領者トシテ之ヲ管轄シ毎年一千マ
 ルクノ年貢ヲ拂フコトヲ約セリ其後數月ヲ經テ又僧正ニコラスノ面前ニ於テ
 再ヒ法皇ニ服從ノ誓約ヲ行ヒホメイシノ禮式ヲ舉行シ法皇ニ臣事スヘキコト
 ナ長章セリ噫亦英國未曾有ノ一大屈辱ニアラスヤ

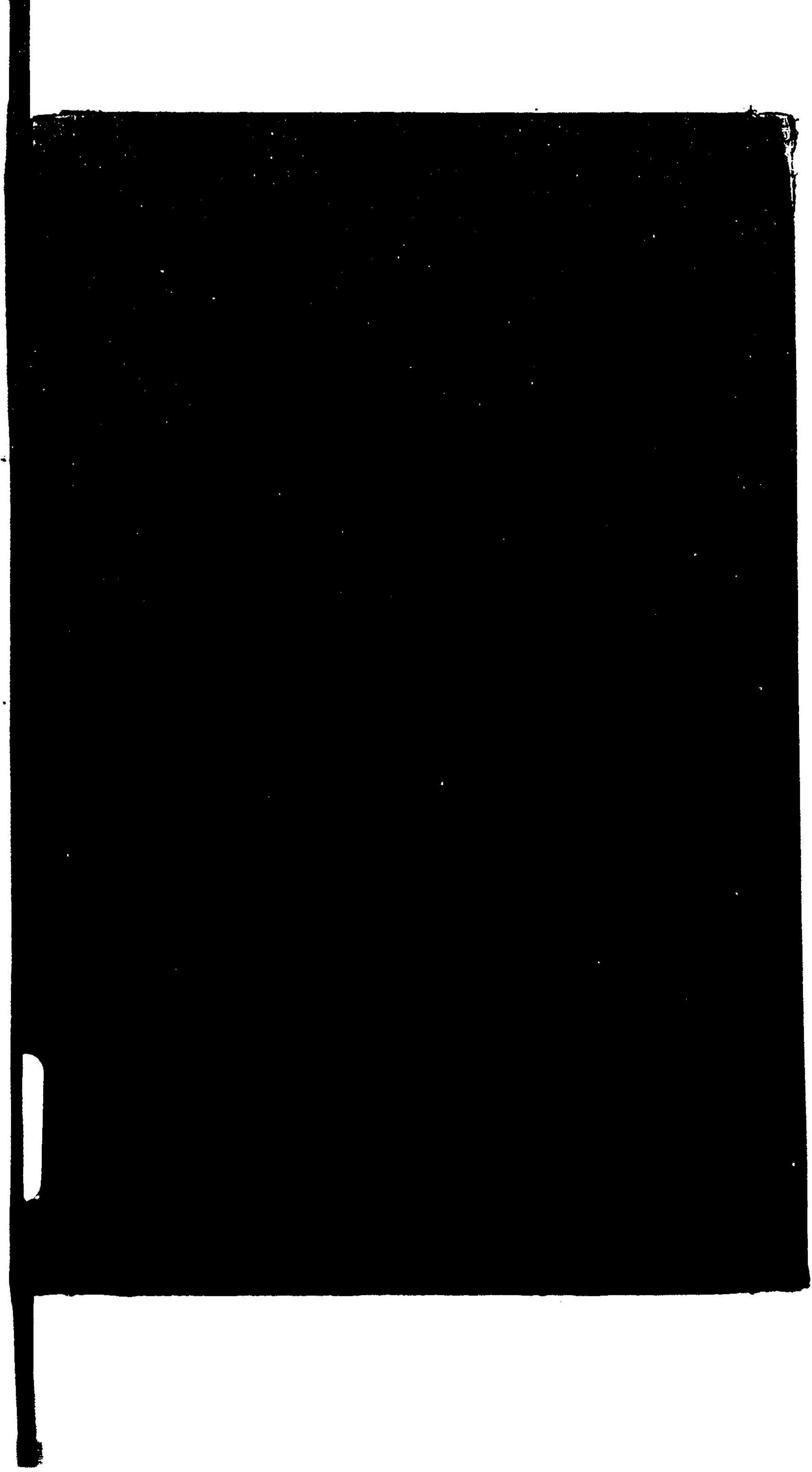
此ニ至テ英國ハ政治上及宗教上共ニ其獨立自治ノ體面ヲ失ヒタルヲ以テ人民
 ハ之ヲジョン王ノ失政ニ歸シ益々王ヲ厭惡スルニ際シ羅馬法皇ハ既ニジョン王
 ナ其足下ニ跪服センメタルヲ以テ今ヤ其政略上ノ方針ヲ一變シ却テジョン王

ヲ助ケテ英民ヲ壓服セシメタリ此ニ於テ貴族等ハ奮然起テ王ニ抵抗センコト
 ナ議決シ英國教會ノ如キモ亦新大僧正ラングトントノ指揮ニ從テ驟起シ英國ノ
 體面ヲ保全シ古來ノ權利自由ヲ回復セント企ツルニ至レリ



14

245



14

246

031498-000-4

14-246

憲法史

茨木 宗之/述

M24?

BBE-0097

